

令和 5 年度取組評価結果一覧

【基本目標 I】安定給水の確保と安全性の向上

施 策		取 組	達成度	貢献度	方向性区分	頁番号
1	水道水・工業用水の水質管理の徹底	1 水源の保全	3	A	I	P 1～
		2 安全でおいしい水の取組	2	A	I	P 3～
		3 工業用水の水質管理	3	A	I	P 5～
		4 受水槽設備の適正管理に向けた支援	3	A	I	P 7～
		5 直結給水方式の導入促進	3	A	I	P 9～
		6 市立小・中学校の直結給水化	4	B	I	P 11～
2	県内水道事業者や企業団等との広域連携	7 ダムの相互連携等による水運用	3	A	I	P 13～
		8 最適な水道システムの実現に向けた取組み	3	A	I	P 15～
3	水道・工業用水道の災害時における機能強化	9 水道施設の耐震化	4	B	I	P 17～
		10 水道管路の耐震化	3	A	I	P 19～
		11 水道基幹管路の強化	3	A	I	P 21～
		12 工業用水道基幹管路の強化	3	A	I	P 23～
		13 応急給水拠点等の整備	4	A	I	P 25～
		14 災害時の飲料水確保	3	A	I	P 27～
		15 施設の停電対策・浸水対策	4	A	I	P 29～
4	水道・工業用水道の危機管理対策	16 災害対応能力の強化	3	A	Ⅱ	P 31～
		17 災害時の連携強化	3	A	Ⅱ	P 33～
5	水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策	18 施設の計画的更新	3	A	I	P 35～
		19 管路の計画的更新	3	A	I	P 37～
		20 施設・管路の将来構想	3	A	I	P 39～
6	水道・工業用水道の施設・管路の維持管理	21 施設の維持管理	3	A	I	P 41～
		22 管路の維持管理	3	A	I	P 43～
		23 管路付属物の維持管理	3	A	I	P 45～
		24 給水管の保全	3	A	I	P 47～
7	水道・工業用水道の地球温暖化対策	25 再生可能エネルギーの有効利用	2	A	I	P 49～
		26 省エネルギー対策	4	B	I	P 51～
8	水道・工業用水道の資源・施設の有効利用	27 資源・施設の有効利用	3	A	I	P 53～
		28 再生資源利用の推進	3	A	I	P 55～

【基本目標Ⅱ】下水道による良好な循環機能の形成

施 策		取 組	達成度	貢献度	方向性区分	頁番号
9	浸水対策	29 重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策	3	A	I	P57～
		30 水処理センター・ポンプ場の耐水化	3	A	I	P59～
10	下水道の管きよ・施設の地震対	31 下水管きよの地震対策	3	A	I	P61～
		32 水処理センター・ポンプ場の地震対策	3	A	I	P63～
11	下水道の危機管理対策	33 災害対応能力の強化	3	A	Ⅱ	P65～
		34 災害時の連携強化と災害リスク情報の発信の推進	3	A	Ⅱ	P67～
12	下水道の管きよ・施設の老朽化対策	35 下水管きよの再整備	3	A	I	P69～
		36 水処理センター・ポンプ場の再構築	3	A	I	P71～
		37 水処理センター・ポンプ場の設備更新・長寿命化	3	A	I	P73～
13	下水道の管きよ・施設の維持管理	38 下水管きよの維持管理	3	A	I	P75～
		39 水処理センター・ポンプ場施設の維持管理	3	A	I	P77～
14	下水道の高度処理	40 水処理センターの高度処理化	4	A	I	P79～
15	合流式下水道の改善	41 合流式下水道の改善	4	B	I	P81～
16	下水道の未普及地域の解消	42 下水道の未普及地域の解消	3	A	I	P83～
17	下水道の事業場指導・水質管理	43 事業場排水の指導	3	A	I	P85～
		44 良好な放流水質の確保	3	A	I	P87～
18	下水道の地球温暖化対策	45 地球温暖化対策	4	B	I	P89～
19	下水道の資源・施設の有効利用	46 資源・施設の有効利用	3	A	I	P91～
		47 再生資源利用の推進	3	A	I	P93～

【基本目標Ⅲ】市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保

施 策		取 組	達成度	貢献度	方向性区分	頁番号
20	お客さまとの信頼関係の構築	48 川崎の上下水道の魅力の情報発信	3	A	Ⅱ	P95～
		49 適正な給水装置・排水設備工事の確保	3	A	Ⅱ	P97～
		50 水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収	3	A	Ⅱ	P99～
21	お客さまの利便性の向上	51 上下水道お客さまセンターの品質向上	3	A	Ⅱ	P101～
		52 給水装置関連業務のオンライン化	3	A	Ⅱ	P103～
		53 新たなサービスの提供に向けた取組	3	A	I	P105～
22	世界の水環境改善に向けた国際事業	54 官民連携による国際展開	3	A	I	P107～
		55 技術協力による国際貢献	3	A	I	P109～
23	持続可能な経営基盤の確保	56 組織機構の見直し及び職員定数の管理	3	A	I	P111～
		57 人材育成の推進	4	A	Ⅱ	P113～
		58 デジタル化の推進	3	A	I	P115～
		59 資産の有効活用	3	A	I	P117～
		60 財政基盤の強化に向けた検討	3	A	Ⅱ	P119～

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道管理課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給
	施策1	水道水・工業用水の水質管理の徹底
	取組1	水源の保全
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		市民がいつでも良質で安全な水を利用できるように水源を保全します。
取組の概要		水源を保全することで原水の水質悪化を抑制し、良質で安全な水を供給します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・相模湖と津久井湖でのエアレーション等によるアオコ対策 ①アオコ異常発生抑制対策 ・相模貯水池のしゅんせつによる堆砂対策 ②相模貯水池のしゅんせつ ・流域の関係事業所への水質汚濁防止の協力要請など水源水質の保全に関する活動 ③水源水質の保全に関する活動
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計画 (Plan)	
今年度の取組内容	・相模湖と津久井湖でのエアレーション等によるアオコ対策 ①アオコ異常発生抑制対策については、川崎市の主な水源である相模湖と津久井湖において、富栄養化の進行により異常発生するアオコを抑制する対策を実施します。 ・相模貯水池のしゅんせつによる堆砂対策 ②相模貯水池のしゅんせつについては、相模湖上流域の災害防止や有効貯水容量の維持を目的として、相模湖を中心とする相模貯水池において年間15万m3のしゅんせつを実施します。 ・流域の関係事業所への水質汚濁防止の協力要請など水源水質の保全に関する活動 ③水源水質の保全に関する活動については、相模湖・津久井湖への水質汚濁を防止するため、水源を共にする県内水道事業者と企業団による特定事業場等への水質汚濁防止の協力を要請します。

実施結果（Do）														
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・相模湖と津久井湖でのエアレーション等によるアオコ対策 ①アオコ異常発生抑制対策については、相模湖と津久井湖のエアレーション装置を稼働し抑制対策を実施しました。 ・相模貯水池のしゅんせつによる堆砂対策 ②相模貯水池のしゅんせつについては、令和5年度は上流部への土砂流入が少なかったため、年間のしゅんせつ量は13.9万m3にとどまりました。 ・流域の関係事業所への水質汚濁防止の協力要請など水源水質の保全に関する活動 ③水源水質の保全に関する活動については、水源域の特定事業場、ガソリンスタンド及びゴルフ場に対し、水質汚染防止の協力を要請するなど保全活動を実施しました。										
				指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値
		説明				計画目標値	－							
1		説明			実績									
2		説明			計画目標値									
					実績									
3		説明			計画目標値									
					実績									
予算決算 （単位：千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費（4年間）					
		水道	予算額	881,669	1,024,148			1,905,817	3,200,000					
			繰越	84,137	47,746			131,883						
			予算額	768,596	1,009,141			1,777,737						
			決算額											
		工水	予算額	303,198	376,677			679,875	1,200,000					
			繰越	43,686	24,791			68,477						
			予算額											
決算額	286,851		348,560			635,411								

評価（Check）			
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	相模湖上流域の災害防止や有効貯水容量の維持を図るため、流入土砂量や貯水池内の堆砂状況、貯水池の利用状況等を踏まえ、しゅんせつを継続する必要があります。 また、気候変動に伴う大雨の増加や藻類による水質悪化など、今後も原水の水質に影響を及ぼす事象が予想されます。
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	水源の保全に向けて各取組を行った結果、しゅんせつ量については年間目標値を下回ったものの、相模湖上流域の災害防止や有効貯水量の維持に貢献するとともに、安全でおいしい水道水及び水質目標値に沿った水質の工業用水を常時供給できたことから、施策に貢献しています。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	安全でおいしい水道水及び水質目標値に沿った水質の工業用水を常時供給するため、原水の水質悪化を抑制する必要があることから今後も取組を継続していきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道計画課
-----	-------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給		
	施策1	水道水・工業用水の水質管理の徹底		
	取組2	安全でおいしい水の取り組み		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		市民がいつでも安全でおいしい水道水を利用できるように徹底した水質管理を実施します。		
取組の概要		水源から給水栓まで水質管理を徹底するとともに適正で信頼性の高い水質検査を実施し、安全でおいしい水を供給します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・水安全計画に基づく水質管理 ・適正な水質検査とその信頼性の確保 ・残留塩素低減化による塩素臭の少ないおいしい水の供給 ・浄水処理方法や水質に関する調査・検討 ・広域水質管理センターによる水源の水質監視		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	・水安全計画に基づく水質管理 ①水安全計画の運用による水源から給水栓までの水質管理 ・適正な水質検査とその信頼性の確保 ②水質検査計画に基づく水質検査とWEBサイト等での情報提供 ③水道GLPの認定更新による検査精度と信頼性の確保 ・残留塩素低減化による塩素臭の少ないおいしい水の供給 ④水温や浄水場からの送配水に係る時間等を考慮した適切な残留塩素の管理 ⑤水質自動測定装置による水質状況の常時測定 ・浄水処理方法や水質に関する調査・検討 ⑥原水の水質に適した浄水処理方法の検討 ・広域水質管理センターによる水源の水質監視 ⑦水源水質検査結果と水源水質事故情報の迅速な情報共有
----------	---

実施結果（Do）													
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				①水安全計画のPDCAサイクルが適切に機能して良質で安全な水道水を供給することができました。 ②水質検査計画に基づいた検査を実施し、その結果をWEBサイトや広報紙において情報提供しました。 ③水道GLPIに従い、検査精度と信頼性の確保をしました。 ④水温や浄水場からの送配水に係る時間等を考慮して浄水場出口の残留塩素濃度の設定を適宜変更し、適切に管理しました。 ⑤水質自動測定装置で水質状況を監視しました。 ⑥水源で発生する藻類による浄水処理障害に対して、浄水用薬品の注入方法の検討・実験をしました。 ⑦WEBブラウザ上での情報共有ツールにより水源水質検査結果や水質事故情報を迅速に情報共有できました。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位	
		説明											
1	成果指標	水道水質基準適合率		計画目標値	－	100	100	100	100	100		%	
		説明	給水栓における水道法に基づく水質基準を満足した検査回数/給水栓における水道法に基づく水質検査回数×100(%)	実績	100	100	100						
2	成果指標	残留塩素濃度低減化目標達成率		計画目標値	－	60	60	60	75	75		%	
		説明	水質自動測定装置による残留塩素濃度0.3～0.5mg/Lの測定回数/水質自動測定装置による残留塩素濃度全測定回数×100(%)	実績	62.2	65.5	76.8						
3				計画目標値									
		説明		実績									
予算決算 （単位：千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費（4年間）					
		水道	予算額	102,854	112,261			215,115	500,000				
			繰越		13,082			13,082					
			予算額										
	決算額	86,441	87,966			174,407							
		予算額					0						
		繰越					0						
		予算額					0						
決算額						0							

評価（Check）			
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	2	気候変動に伴う大雨の増加や藻類による水質悪化などに対応した水質管理を行う必要があります。また、水質基準の逐次改正への対応を含む水質検査の信頼性と精度の維持・向上が必要です。
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	安全でおいしい水に向けて各取組を行った結果、水道法に基づく水質検査を適切に行い、水質基準に適合した安全でおいしい水道水を常時供給できたことから、施策に貢献しています。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	安全でおいしい水を安定供給するため、徹底した水質管理と適正な水質検査が必要なことから今後も取組を継続していきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給		
	施策1	水道水・工業用水の水質管理の徹底		
	取組3	工業用水の水質管理		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		工業用水利用者が、いつでも本市で設定した水質目標値に沿った適正な水質の工業用水を利用できるようにします。		
取組の概要		工業用水道事業法に則った水質測定項目による水質管理を徹底するとともに、適切な浄水処理の実施と供給水の常時監視の継続により、本市で設定した水質目標値に沿った適正な水質の工業用水を供給します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・水質目標値に沿った水質管理 ・適正な水質測定		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	・水質目標値に沿った水質管理 ①浄水場における適切な浄水処理の実施と供給水の常時監視 ②工業用水道事業法に則った測定項目と頻度による水質測定 ・適正な水質測定
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

①浄水場において原水の状況に応じて適切な浄水処理を実施するとともに、供給水の濁度、pH値、水温について常時監視したことで川崎市工業用水水質目標値に沿った工業用水を供給でき、目標を達成しました。
②工業用水道事業法に則った測定項目と頻度で供給水を測定するとともに、水質管理上必要と判断した項目についても測定しました。また送配水系統を考慮して選定した工業用水利用者の工場において定期検査を実施し、水質が適正であることを確認できました。

指標分類		指標名			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明											
1	成果 指標	工水水質目標達成率			計画目標値	－	100	100	100	100	100		%
		説明	川崎市工水水質目標値を達成した水質測定回数/工業用水道事業法に基づく全水質測定の回数×(100%)										
2					計画目標値	－							
		説明			実績								
3					計画目標値								
		説明			実績								
予算 決算 (単位：千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
		工水	予算額	15,892	2,442			18,334	30,000				
			繰越		7,488			7,488					
			予算額										
			決算額	7,608	9,742			17,350					
			予算額					0					
			繰越					0					
		予算額					0						
			決算額					0					

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	気候変動に伴う大雨の増加などによる水質悪化等の変化に対応しながら、常に原水の水質に応じた適正な浄水処理を実施し、水質目標値に沿った適正な水質の工業用水を供給する必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	工業用水の水質管理について各取組みを行った結果、適切な浄水処理と適正な水質測定により、常に水質目標値に沿った水質の工業用水を供給できたことから、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	水質目標値に沿った水質の工業用水の供給を常時確保するため、水質目標値に沿った水質管理と適正な水質測定が必要なことから今後も取組を継続していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道管理課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給【安全・安心】		
	施策1	水道水・工業用水の水質管理の徹底		
	取組4	受水槽設備の適正管理に向けた支援		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		小規模受水槽(有効容量8m3以下)の適正管理を推進することにより、安全な水道水の供給維持を図ります。		
取組の概要		水道法及び条例に基づく年1回の定期検査の受検義務のない小規模受水槽を対象に、3年で市内を一巡する無料の点検調査を実施するとともに調査結果を所有者へ情報提供し、適正管理に向けた支援を行います。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・小規模受水槽の点検調査の継続による適正管理への関与 ①小規模受水槽の点検調査 ・受水槽の管理状況等の情報提供 ②受水槽の管理状況等の情報提供		
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	・小規模受水槽の点検調査の継続による適正管理への関与 ①小規模受水槽の点検調査については、川崎区、幸区を対象に実施します。 ・受水槽の管理状況等の情報提供 ②受水槽の管理状況等の情報提供を行い、適正管理に向けた支援を行います。
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			・小規模受水槽の点検調査の継続による適正管理への関与 ①小規模受水槽の点検調査については、川崎区、幸区を対象に実施しました。 ・受水槽の管理状況等の情報提供 ②受水槽の管理状況等の情報提供については、所有者へ情報提供を行いました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明			計画目標値	－							
				実績								
2	説明			計画目標値	－							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位：千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
		水道	予算額	4,492	7,465			11,957	30,000			
			繰越					0				
			予算額 決算額	3,756				3,756				
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額 決算額					0				
評価（Check）												
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分			実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			3	受水槽を利用している利用者へ安全な水を供給するため、定期検査の受検義務のない小規模受水槽の適正管理に向けた支援を継続的に実施していく必要があります。							
施策への 貢献度	貢献度区分			施策の貢献度区分を選んだ理由								
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			A	小規模受水槽の点検調査結果を所有者へ情報提供し、受水槽の適正管理を支援できていることから、施策である水道水の水質管理の徹底に貢献しています。							
改善（Action）												
今後の取組の方向性	方向性区分			実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性								
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了			I	適正管理に向けた支援が必要なことから、引き続き、小規模受水槽を対象に点検調査を実施していきます。							

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

給水装置課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給		
	施 策 1	水道水・工業用水の水質管理の徹底【安心・安全】		
	取 組 5	直結給水方式の導入促進		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		配水管から受水槽を経由せずに新鮮な水道水を蛇口まで給水できるよう直結給水方式の導入を促進することにより、良質で安全な水道水の安定供給を図ります。		
取組の概要		上下水道局ウェブサイト等の広報により直結給水方式の導入を促進します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・上下水道局ウェブサイト等による広報の充実 ①ウェブサイト等による広報 ・給水装置工事相談窓口での直結給水方式の導入促進 ②直結給水方式の導入促進		
当初の計画からの変更 箇所とその理由（取組の 概要、計画期間の取組内容や 計画目標値を変更して進捗管 理している場合に記入）		変更箇所		
		変更理由		

計 画（Plan）

今年度の取組内容	・上下水道局ウェブサイト等による広報の充実 ①ウェブサイト等による広報については、局ウェブサイト等において、直結給水方式の導入によるメリットや具体的な手続きの流れを示す等、広報内容の充実を図ります。 ・給水装置工事相談窓口での直結給水方式の導入促進 ②直結給水方式の導入促進については、給水装置工事相談窓口において、リーフレットの配布等を行います。
----------	---

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

- ① 直結給水方式に関するメリット等を説明した局ウェブサイトについて、手続きのフローを改善し、広報の充実を図りました。
② 直結給水方式の導入促進については、給水装置工事相談窓口において、リーフレットの配布等を行いました。

指標分類		指標名			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明											
1					計画目標値	－							
					実績								
		説明											
2					計画目標値	－							
					実績								
		説明											
3					計画目標値								
					実績								
		説明											
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	局ウェブサイトや給水装置工事相談窓口等において直結給水方式を広報することで、利用者の良質で安全な水への関心を高めることにより、直結給水の導入を促進していく必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	局ウェブサイト等の広報を効果的に実施し、直結給水方式の導入を促進できていることから、施策である水道水の水質管理の徹底に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	良質で安全な水道水を蛇口まで供給するため、局ウェブサイトや給水装置工事相談窓口等において直結給水のメリットなどの広報を継続的に実施し、直結給水方式の導入を促進していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給【安全・安心】		
	施 策 1	水道水・工業用水の水質管理の徹底		
	取 組 6	市立小・中学校の直結給水化		
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		次世代を担うこどもたちに、受水槽を経由せずに新鮮で冷たくおいしい水を供給することで蛇口から直接水道水を飲む文化の継承を図ります。		
取組の概要		教育委員会の計画に基づき、市立小・中学校の直結給水化を共同で推進します。また、配水管の水圧を有効利用し、ポンプ設備等の消費電力を削減することで、環境負荷の低減も図られます。		
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・教育委員会の計画に基づいた、市立小・中学校の直結給水化 ①市立小・中学校の直結給水化の促進		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	・教育委員会の計画に基づいた、市立小・中学校の直結給水化 ①市立小・中学校の直結給水化を促進については、教育委員会と調整を図りながら16校の直結化を推進します。
----------	---

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			・教育委員会の計画に基づいた、市立小・中学校の直結給水化 ①市立小・中学校における直結給水化の促進については、予定していた16校のうち、6校が完成しました。未完成の10校については、まちづくり局発注（教育委員会依頼）の直結給水化工事の設計は予定通り完了したものの、工事費の高騰や入札不調等により再発注となり、完成が次年度以降となりました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明			計画目標値	－							
				実績								
2	説明			計画目標値	－							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
		水道	予算額	9,000	63,112			72,112	300,000			
			繰越					0				
			予算額 決算額	0	22,708			22,708				
			予算額					0				
			繰越					0				
予算額 決算額						0						
評価（Check）												
今年度の 取組内容 に対する達成度		達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	4	関係局が工事を発注しますが、近年の建築コストの高騰や入札が同時期に集中する等の影響で入札不調等が起きてしまうため、計画通りに直結給水化が進みづらい状況にあります。								
施策への 貢献度		貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由								
		A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	年度当初予定の16校のうち、6校の市立小・中学校における直結給水化を完成させたことにより、受水槽を経由しない新鮮で冷たくおいしい水の供給を実現し、直結給水方式の普及を推進しました。								
改善（Action）												
今後の取組の方向性		方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性								
		I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	小・中学校の直結給水化は、次世代を担うこどもたちに、水道水の安全性やおいしさを理解してもらうとともに、ポンプ設備等の消費電力を削減し、環境負荷の低減が図れることから、継続して推進していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道計画課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給
	施策2	県内水道事業者や企業団等との広域連携
	取組7	ダムの相互連携等による水運用
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		水源を共にする県内水道事業者や企業団等と連携し、ダムの相互連携等による効率的な水運用を実施することにより、安定した水の供給を継続します。
取組の概要		相模川水系の相模ダム・城山ダム・宮ヶ瀬ダムを導水路で連携した相模川水系総合運用や企業団施設を中心とした相模川水系と酒匂川水系の2水系の連携により、効率的な水運用を実施し、小雨時等に備えます。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・相模川水系総合運用による効率的な水の運用 ①相模川水系総合運用 ・相模川水系と酒匂川水系の連携による効率的な水運用 ②相模川水系と酒匂川水系の連携
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計画 (Plan)	
今年度の取組内容	・相模川水系総合運用による効率的な水の運用 ①相模川水系総合運用については、ダムの相互連携による効率的な水運用を行い、少雨時等に備えます。 ・相模川水系と酒匂川水系の連携による効率的な水運用 ②相模川水系と酒匂川水系の連携については、2水系の連携による効率的な水運用を行い、少雨時等に備えます。

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				・相模川水系総合運用による効率的な水の運用 ①相模川水系総合運用については、ダムの相互連携により、効率的な水運用を行い、安定した水の供給を継続することができました。 ・相模川水系と酒匂川水系の連携による効率的な水運用 ②相模川水系と酒匂川水系の連携については、企業団の施設を中心として、2水系を連携することにより、水源水質事故リスクの低減を図るとともに、効率的な水運用を行い、安定した水の供給を継続することができました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
1	説明			計画目標値	－								
				実績									
2	説明			計画目標値	－								
				実績									
3	説明			計画目標値									
				実績									
予算 決算 (単位：千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
決算額						0							

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）							
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	水源水質事故や小雨時のリスクに備え、安定した水の供給を継続していくため、県内水道事業者や企業団等と連携し、ダムの相互連携など効率的な水運用を継続していく必要があります。							
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由							
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	水源を共にする県内水道事業者や企業団等と連携し、ダムの相互連携等による効率的な水運用を実施することにより、水源水質事故リスク等の低減を図るとともに、安定した水の供給の維持が図られていることから、施策に貢献しています。							

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性							
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	水源水質事故や小雨時のリスクに備え、安定した水の供給を継続していくため、県内水道事業者や企業団等と連携し、ダムの相互連携など効率的な水運用を継続していきます。							

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給		
	施 策 2	県内水道事業者や企業団等との広域連携		
	取 組 8	最適な水道システムの実現に向けた取組		
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		施設の老朽化や水需要の減少など水道事業者に通ずる課題に対して、将来にわたる水道水の安定供給を確保するため、水源を共にする県内水道事業者と企業団の5事業者で連携し、最適な水道システムの実現に向けた検討を進めます。		
取組の概要		最適な水道システムの実現に向けて、施設のバックアップ機能の強化や環境負荷の低減等を目的とした上流取水の優先的利用など、県内水道システムの再構築の具体的な検討を5事業者で進めます。また、5事業者で連携して開設した広域水質管理センターによる水源の水質管理を継続するとともに、水質関連業務の効率化と対応強化を図るため、更なる業務の共同化等について検討を進めます。		
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・県内水道システムの再構築の検討 ・広域水質管理センターによる水質管理		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	・県内水道システムの再構築の検討 ①県内水道システムの再構築については、5事業者で連携し、最適な水道システムの実現に向けた施設整備計画や費用負担方法について検討を進めるとともに、上流取水の優先的利用の実現に向けて関係機関と協議を進めます。 ・広域水質管理センターによる水質管理 ②広域水質管理センターによる水源の水質管理を継続して実施します。また、令和7年度からの広域水質管理センターの次期共同事業の協定締結に向けて、運営方法等について検討を進めます。
----------	---

実施結果（Do）													
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・県内水道システムの再構築の検討 ①令和5年5月に公表した「施設整備の概要」から、施設整備内容の検証や整備スケジュール、費用負担の考え方等の検討を進め、「5事業者の施設整備計画」をとりまとめました（令和6年度5月27日公表）。また、上流取水については、宮ヶ瀬ダム開発水を暫定的に取水している寒川地点から本来の社家地点へ取水を戻すことについて、県行政の水資源に係る総合調整部署と協議し、河川管理者である国へ相談するなど、調整を進めました。 ・広域水質管理センターによる水質管理 ②広域水質管理センターによる水源の水質管理を継続して実施するとともに、令和7年度からの広域水質管理センターの次期共同事業の協定締結に向けて、各事業者の職員派遣等、運営方法を取りまとめ、協定の素案を作成するなど検討を進めました。									
				指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		説明											
1	説明			計画目標値	－								
				実績									
2	説明			計画目標値	－								
				実績									
3	説明			計画目標値									
				実績									
予算 決算 （単位：千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費（4年間）					
		予算額					0						
		繰越					0						
		予算額					0						
		決算額					0						
		予算額					0						
		繰越					0						
		予算額					0						
決算額						0							

評価（Check）				
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		3	水道システムの再構築における、5事業者の施設整備計画や広域水管理センターの次期共同事業の運営方法を取りまとめるなど、順調な進捗を確保しています。引き続き、最適な水道システムの実現に向けて、検討を進めていく必要があります。
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		A	最適な水道システムの実現に向けた検討は、県内水道事業者や企業団と連携して取り組むことにより、将来にわたる安定供給の確保が図られることから、施策に貢献しています。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 改善しながら継続 Ⅲ. 取組規模拡大 Ⅳ. 取組規模縮小 Ⅴ. 取組廃止 Ⅵ. 取組終了		Ⅰ 将来にわたり良質で安全な水を安定して供給するため、最適な水道システムの実現に向けて、水源を共にする5事業者で連携し、県内水道システムの再構築の検討及び広域水質管理センターによる水質管理を、継続して進めていきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

		所管課	水道計画課
取組の概要			
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 	
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】	
	施策3	水道・工業用水道の災害時における機能強化	
	取組9	水道施設の耐震化	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		主要な水道施設の耐震化を進めることで、安心して使用することのできる水道水を市民へ安定供給するとともに、大規模災害時においても必要な水道水の供給維持を図ります。	
取組の概要		震災時においても市民生活や事業者の経済活動に必要な水道水・工業用水を安定的に供給するため、主要な施設である浄水場や配水池等の更新・耐震化を進めてきており、未実施の施設について継続して耐震化を実施します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・施設の耐震化 ①黒川高区配水池(令和4年度未完了) ②千代ヶ丘配水塔2号塔(令和4年度未完了)	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所	・施設の耐震化 ②千代ヶ丘配水塔2号塔(令和6年度未完了)【令和5年度に変更】
		変更理由	②工事に伴い発生する騒音・振動に対し、近隣住民から強い陳情を受けたことに伴い当初の目標年度内に耐震化が完了しなかったため。
計 画 (Plan)			
今年度の取組内容		・施設の耐震化 ②千代ヶ丘配水塔2号塔の耐震化を推進します。	

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・施設の耐震化 ②千代ヶ丘配水塔2号塔の耐震化の推進については、工事に伴い発生する騒音・振動に対し、強い陳情を受けたことに伴い、低騒音・低振動の施工方法等の検討、施工計画の見直しに時間を要したこと、施工方法変更による進捗率の低下により、工事に遅延が生じましたが、取組を推進しました。なお、完成は、令和6年度を予定しています。								
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	活動 指標	配水池・配水塔の耐震化率		計画目標値	－	100	100	100	－	100		%
		耐震化された配水池・配水塔の有効容量／配水池・配水塔の全有効容量×100(%)		実績	98.5	99.1	99.1					
2		説明		計画目標値	－							
				実績								
3		説明		計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位：千円）		事業	水道	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）		
				予算額	893,854	730,179			1,624,033	2,100,000		
				繰越	27,950				27,950			
				予算額	683,791	964,103			1,647,894			
				決算額								
				予算額					0			
				繰越					0			
				予算額					0			
決算額					0							

評価（Check）			
今年度の取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		4 遅延している千代ヶ丘配水塔2号塔の耐震化工事は、引き続き陳情者の理解を得ながら、工事完成に向け取り組んでいく必要があります。
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		B 成果指標である「配水池・配水塔の耐震化率」は目標を下回ったものの、R6年度の工事完成に向けて着実に推進していることから、施策にやや貢献しています。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 改善しながら継続 Ⅲ. 取組規模拡大 Ⅳ. 取組規模縮小 Ⅴ. 取組廃止 Ⅵ. 取組終了		Ⅰ いつでも安心して使用することのできる水道水を安定して供給するとともに、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限に抑えるため、水道施設の更新・耐震化を引き続き進めていきます。 なお、活動指標である「配水池・配水塔の耐震化率」については、目標を下回りましたが、引き続き陳情者の理解を得ながら、工事完成に向け取り組んでいきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道計画課
-----	-------

取組の概要			
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上	
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】	
	施策3	水道・工業用水道の災害時における機能強化	
	取組10	水道管路の耐震化	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		水道管路の計画的な耐震化を進めることで、市民が安心して使用することのできる水道水を安定供給するとともに、大規模災害時においても必要な水道水の供給維持を図ります。	
取組の概要		水道管路の耐震化については、主に更新時期を迎えた管路を更新することで耐震化を進めていますが、管路延長は膨大であり、すべての管路を耐震化するには多くの時間を要することから、優先的に耐震化を進める管路を選定し、効率的・効果的に耐震化を進めます。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・水道管路の更新に合わせた耐震化 ・重要な管路の耐震化(令和4年度未完了) ・地震被害想定等を考慮した「新たな重要な管路」の選定・耐震化の実施	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	・水道管路の更新に合わせた耐震化(「震災時の被害が懸念される老朽配水管」を含む)【令和5年度に変更】	
	変更理由	・令和4年度までの取組「重要な管路」のうち、老朽配水管については、掘削規制や県治水事務所との河川協議に時間を要した結果、未完了の管路がありますが、周辺管路の老朽度等を考慮しながら効率的に耐震化を推進するため、令和5年度以降、水道管路の更新に合わせた耐震化の取組に含めます。	

計画(Plan)	
今年度の取組内容	・水道管路の更新に合わせた耐震化 ①水道管路の更新に合わせた耐震化については、更新時期を迎えた非耐震管の耐震化の推進をします。(「震災時の被害が懸念される老朽配水管」を含む) ・重要な管路の耐震化(令和4年度未完了) ②重要な管路の耐震化については、令和4年度に未実施となった重要給水施設への供給ルートの耐震化を推進します。(道路拡幅工事と合わせて整備する1施設) ・地震被害想定等を考慮した「新たな重要な管路」の選定・耐震化の実施 ③地震被害想定等を考慮した「新たな重要な管路」の選定・耐震化の実施については、新たに設定した重要給水施設への供給ルートの管路や緊急輸送道路に埋設された管路の「新たな重要な管路」の耐震化を推進します。

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

・水道管路の更新に合わせた耐震化

①水道管路の更新に合わせた耐震化については、管路の老朽度・継手構造・今後の工事量の平準化等を考慮して策定した更新計画に基づき、工事を発注し取組を推進しました。また、震災時の被害が懸念される老朽配水管についても、周辺管路の老朽度等を考慮しながら、効率的に耐震化を推進しました。

・重要な管路の耐震化（令和4年度未完了）

②重要な管路の耐震化については、重要施設への供給ルートへの耐震化を完了しました。

・地震被害想定等を考慮した「新たな重要な管路」の耐震化の実施

③消防署、警察署や二次避難所となる入所型社会福祉施設など、災害時にも給水の継続が必要である施設への供給ルートを対象として耐震化を推進しました。

指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	成果 指標	管路全体の耐震化率		計画目標値	－	40.1	41.7	43.3	44.9	44.9		%
		説明	耐震化された管路の延長／管路の総延長×100（%） ※管路の総延長約2,500km	実績	38.8	40.8	42.7					
2	成果 指標	重要な管路の耐震化率		計画目標値	－	100	－	－	－	100		%
		説明	耐震化された重要な管路の延長／重要な管路の総延長×100（%） ※重要な管路の総延長約800km	実績	96.2	97.9	98.2					
3	成果 指標	消防署・警察署等の重要施設への供給ルートへの耐震化完了率		計画目標値	－	－	22.2	41.4	56.6	56.6		%
		説明	耐震化が完了した重要施設数／重要施設の総数×100（%） ※重要施設の総数は99施設（消防署、警察署、福祉施設）	実績	－	－	22.2					

予算 決算 （単位： 千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）
	水道	予算額	12,554,681	10,386,841			22,941,522	44,900,000
		繰越	2,191,629	4,154,300			6,345,929	
		予算額						
		決算額	10,188,680	11,296,447			21,485,127	
		予算額					0	
		繰越					0	
予算額						0		
決算額						0		

評価（Check）				
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	水道管路の延長は約2,550kmと膨大なため、震災発生時の市民生活への影響の大きさを考慮し、引き続き、効率的・効果的に耐震化を推進する必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	成果指標である「重要な管路の耐震化率」は、目標をわずかに下回ったものの、「管路の耐震化率」、「消防署・警察署等の重要施設への供給ルートへの耐震化完了率」は目標を達成することができていることから、施策に貢献しています。	

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	いつでも安心して使用することのできる水道水を安定して供給するとともに、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限に抑えるため、引き続き更新時期を迎えた管路の耐震化を適切に実施する必要があります。 なお、成果指標である「重要な管路の耐震化率」については、目標を下回りましたが、その内、老朽配水管については、周辺管路の老朽度等を考慮しながら、効率的に耐震化を推進していきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】		
	施 策 3	水道・工業用水道の災害時における機能強化		
	取 組 11	水道基幹管路の強化		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		基幹管路の二重化・ネットワーク化を進めることで、市民が安心して使用することのできる水道水を安定供給するとともに、大規模災害時においても必要な水道水の供給維持を図ります。		
取組の概要		基幹管路の断水や水圧低下は市民生活に大きな影響を与える可能性があることから、バックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化を進めるため、施設間(配水池・配水塔)を結ぶ連絡管などの整備を行います。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化 ①千代ヶ丘2号送水管(令和4年度未完了) ②東百合丘配水管(令和4年度未完了) ③高石3号配水管(令和7年度未完了) ④犬蔵配水管 ⑤土橋配水管(令和7年度未完了) ⑥菅配水管(令和7年度未完了) ⑦その他管路		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	・水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化 ③高石3号配水管の整備の検討を行います。 ④犬蔵配水管の整備の検討を行います。 ⑤土橋配水管の整備を推進します。 ⑥菅配水管の整備の検討を行います。
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化 ③高石3号配水管については、令和6年度の整備開始に向けて、詳細設計委託業務を実施しました。 ④犬蔵配水管については、令和7年度の整備開始に向けて、基本設計委託業務を実施しました。 ⑤土橋配水管については、整備に着手しました。 ⑥菅配水管については、整備の検討を行いました。								
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	活動 指標	バックアップ機能強化のための管路整備(計画期間内)		計画目標値	－	2	2	2	5	5		路線
		説明	計画期間内に完了予定のバックアップ機能強化のための管路整備路線数	実績	－	2	2					
2				計画目標値								
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
		水道	予算額	1,103,222	430,256			1,533,478	6,500,000			
			繰越	348,480			348,480					
			予算額									
			決算額	1,625,394	14,541		1,639,935					
			予算額					0				
			繰越					0				
予算額						0						
決算額						0						

評価（Check）			
今年度の取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	基幹管路断水時の市民生活への影響の大きさを考慮し、引き続き、効率的・効果的に耐震化を推進する必要があります。
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	成果指標である「バックアップ機能強化のための管路整備」は、目標を達成しており、さらに今後の管路整備に関する基本設計や詳細設計に関する委託業務も確実に実施し、バックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化の取組を推進し、漏水事故や更新時の断水リスクの軽減に繋がっていることから、施策に貢献しています。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	いつでも安心して使用することのできる水道水を安定して供給するとともに、大規模地震発生時にも、市民生活への影響を最小限に抑えるため、引き続き基幹管路の二重化・ネットワーク化を進める必要があります。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】		
	施 策 3	水道・工業用水道の災害時における機能強化		
	取 組 12	工業用水道基幹管路の強化		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		工業用水道基幹管路の二重化・ネットワーク化を進めることで、工業用水を工業用水道利用者へ安定供給するとともに、大規模災害時においても必要な工業用水の供給維持を図ります。		
取組の概要		工業用水は3本の送水管にて臨海部を中心に送水しており、送水管を断水した場合には、工業用水道利用者の経済活動に大きな影響を与えることから、バックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化を図るため、長沢浄水場と生田浄水場を結ぶ浄水場連絡管及び3本の送水管を結ぶ送水連絡管の整備を実施します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・工業用水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化 ①浄水場連絡管の整備(令和7年度未完了) ②1・3号送水連絡管(令和6年度未完了) ③2・3号送水連絡管(令和7年度未完了)		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	- 工業用水道基幹管路のバックアップ機能強化のための二重化・ネットワーク化 ①浄水場連絡管の整備を推進します。 ②③送水連絡管(2路線)の整備を推進します。
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)												
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	成果 指標	バックアップ機能強化のための管路整備(計画期間内)		計画目標値	-	-	-	1	3	3		路線
		説明	計画期間内に完了予定のバックアップ機能強化のための管路整備路線数	実績	-	-	-					
2				計画目標値								
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		工水	予算額	63,150	130,015			193,165	7,600,000			
			繰越		17,237			17,237				
			予算額									
			決算額	0				0				
			繰越					0				
			予算額					0				
決算額					0							
評価（Check）												
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分			実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)								
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			3	送水管断水時の工業用水道利用者への影響の大きさを考慮し、引き続き、連絡管の整備を推進する必要があります。							
施策への 貢献度	貢献度区分			施策の貢献度区分を選んだ理由								
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			A	連絡管の整備に向けた工事の着手や詳細設計業務等を確実に推進しており、工業用水道利用者へ安定給水するとともに大規模災害時においても必要な工場用水の供給維持に繋がっていることから、施策に貢献しています。							
改善（Action）												
今後の取組の 方向性	方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性								
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 改善しながら継続 Ⅲ. 取組規模拡大 Ⅳ. 取組規模縮小 Ⅴ. 取組廃止 Ⅵ. 取組終了			Ⅰ	工業用水の安定供給を維持するとともに、大規模地震発生時にも、工業用水道利用者への影響を最小限に抑えるため、引き続き基幹管路の二重化・ネットワーク化を進めていきます。							

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道計画課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】
	施策3	水道・工業用水道の災害時における機能強化
	取組13	応急給水拠点等の整備
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		大規模災害時において、ご家庭などで水道が利用できない状況になった場合でも市民に水を供給できるよう、応急給水拠点の整備を進めます。
取組の概要		避難所に指定されている全ての市立小・中学校や配水池・配水塔などに開設不要型応急給水拠点の整備を進め、令和5年度末を目標に整備を完了させます。併せて、応急給水拠点を補完する施設として、水道水源として廃止した井戸を活用し、臨時給水用井戸の整備を進めます。 また、さらなる利便性の向上について検討し、必要に応じて整備を進めます。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・開設不要型応急給水拠点の整備(令和5年度未完了) ・応急給水拠点の利便性の検討及び拡充 ・臨時給水用井戸の整備(令和4年度未完了)
当初の計画からの変更 箇所とその理由 (取組の 概要、計画期間の取組内容や 計画目標値を変更して進捗管 理している場合に記入)	変更箇所	・臨時給水用井戸の整備(令和5年度未完了)【令和5年度に変更】
	変更理由	・臨時給水用井戸の整備については、調整に時間を要し発注時期が遅れたことに伴い、当初の目標年度内に整備が完了しなかったため。

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	・開設不要型応急給水拠点の整備(令和5年度未完了) ①開設不要型応急給水拠点の整備を推進します。(市立小・中学校25校、配水池・配水塔など1箇所) ・応急給水拠点の利便性の検討及び拡充 ②応急給水拠点のさらなる利便性の向上に向けた整備の検討を実施します。 ・臨時給水用井戸の整備(令和4年度未完了) ③臨時給水用井戸の整備を推進します。

実施結果（Do）													
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・開設不要型応急給水拠点の整備（令和5年度末完了） ①開設不要型応急給水拠点の整備については、教育委員会が校舎増築等に含めて整備する1校の拠点が、工事の遅延により、次年度の整備となったため、24校の整備となりました。また、配水塔更新工事に合わせて整備する1箇所については、工事の延期により令和7年度の完成を予定しています。 ・応急給水拠点の利便性の検討及び拡充 ②応急給水拠点については、人口分布や被害想定と拠点の配置状況等を分析し、拠点の追加整備の必要性について検討を行いました。さらなる多角的な分析が必要と判断し、検討を継続します。 ・臨時給水用井戸の整備（令和4年度末完了） ③臨時給水用井戸については、現場状況により、受注者と協議を行った結果、工事を打ち切り令和6年度に再発注することとしました。それに伴い、整備完了が令和5年度末から令和6年度末となります。									
				指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		説明											
1	成果 指標	開設不要型応急給水拠点の整備率			計画目標値	－	84	100	－	－	100		％
		説明	開設不要型応急給水拠点の整備数／開設不要型応急給水拠点の計画整備数×100（％）		実績	67.8	85.1	98.9					
2		説明			計画目標値	－							
					実績								
3		説明			計画目標値								
					実績								
予算 決算 （単位：千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費（4年間）				
		水道	予算額	236,040	71,950			307,990	400,000				
			繰越		179,872			179,872					
			予算額										
			決算額	44,587	102,368			146,955					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
決算額						0							

評価（Check）				
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	4	成果指標である「開設不要型応急給水拠点の整備率」は、校舎増築工事や配水塔更新工事の遅延により、2施設が次年度以降の完成となったことから目標値を下回りました。また、臨時給水用井戸については、再発注となり整備が完了しなかったことから、達成度としては、目標を下回りました。引き続き、整備が完了していない2箇所の開設不要型応急給水拠点の整備や臨時給水用井戸の整備を推進するとともに、さらなる利便性の向上について検討を進めていく必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	成果指標である「開設不要型応急給水拠点の整備率」は校舎増築工事や配水塔更新工事の遅延により、2施設が次年度以降の完成となったことから目標値を下回りましたが、避難所に指定されている全ての市立小・中学校などへの開設不要型応急給水拠点の整備は確実に推進し、大規模災害時において、ご家庭などで水道が利用できない状況になった場合でも、必要な水道水の供給に繋がっていることから、施策に貢献しています。	

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	
			大規模災害時において、ご家庭などで水道が利用できない状況になった場合でも市民に水を供給できるよう、応急給水拠点の整備を引き続き推進します。 また、臨時給水用井戸についても、工事完成に向け取り組んでいきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】		
	施 策 3	水道・工業用水道の災害時における機能強化		
	取 組 14	災害時の飲料水確保		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		大規模災害時において、管路等の損傷により漏水が発生した場合でも、市民生活に必要な飲料水を確保します。		
取組の概要		災害時における飲料水確保については、2池以上ある配水池・配水塔の耐震化にあわせて、1池に緊急遮断弁を整備し、一定規模の地震に対して緊急遮断弁が閉止することで、1池分の飲料水を確保します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・2池以上ある配水池・配水塔の耐震化及び緊急遮断弁等の整備 ①黒川高区配水池(令和4年度未完了) ②千代ヶ丘配水塔(1号塔・2号塔)(令和6年度未完了)		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	・2池以上ある配水池・配水塔の耐震化及び緊急遮断弁の整備 ②千代ヶ丘配水塔(2号塔)の耐震化及び緊急遮断弁の整備を推進します。
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			・2池以上ある配水池・配水塔の耐震化及び緊急遮断弁等の整備 ②千代ヶ丘配水塔（2号塔）の耐震化及び緊急遮断弁の整備を推進しました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	成果 指標	災害時の確保水量		計画目標値	－	16.5万	16.5万	16.6万	－	16.6万		m³
		説明	災害時の確保済水量	実績	16.4万	16.5万	16.5万					
2				計画目標値	－							
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
		水道	予算額	取組9「水道施設の耐震化」に含まれる。								
			繰越									
			予算額 決算額									
			予算額					0				
			繰越					0				
予算額 決算額						0						
評価（Check）												
今年度の 取組内容 に対する達成度		達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	災害時の飲料水確保については、千代ヶ丘配水塔の整備を引き続き推進する必要があります。								
施策への 貢献度		貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由								
		A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	成果指標である「災害時の確保水量」は、目標を達成しており、大規模災害時において管路等の損傷により漏水が発生した場合でも、市民生活に必要な飲料水の確保に繋がっていることから、施策に貢献しています。								
改善（Action）												
今後の取組の方向性		方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性								
		I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	大規模災害時において、管路等の損傷により漏水が発生した場合でも、市民生活に必要な飲料水を確保できるよう、配水池・配水塔の耐震化及び緊急遮断弁の整備を引き続き推進します。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道計画課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】
	施策3	水道・工業用水道の災害時における機能強化
	取組15	施設の停電対策・浸水対策
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		停電や河川氾濫等が発生した場合においても、市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水の供給維持を図ります。
取組の概要		停電対策については、これまで商用電源の二重化や非常用自家発電設備等の整備を進めてきましたが、近年の災害時における復旧時間を踏まえ、長期停電への対策として非常用自家発電設備の燃料タンクの増設・増強を実施します。 浸水対策については、洪水ハザードマップの浸水区域に含まれる施設について、被害の回避・低減を図るため、対策を実施します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・長期停電への対策 ①燃料タンクの増強 ・浸水想定区域内に含まれる施設の浸水対策(耐水化) ②浸水対策
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所 ・長期停電への対策 ①燃料タンクの増強に関する個別工事の予定変更【令和5年度に変更】 ・浸水想定区域内に含まれる施設の浸水対策(耐水化) ②浸水対策に関する対象施設の変更と個別工事の予定変更【令和5年度に変更】
		変更理由 ・長期停電への対策 ①燃料タンクの増強 ・潮見台配水所について、入札の不調により、再発注となったことで対策実施の開始が遅れ、令和5年度末の完了予定が令和6年度末となった。 ・浸水想定区域内に含まれる施設の浸水対策(耐水化) ②浸水対策 ・工水管1号さく井について、詳細検討の結果、浸水想定水位では浸水しないことが判明したため、対策が不要となった。 ・工水管3・6号さく井について、対策として設置する止水扉や併せて施工している設備更新工事の電気盤が、昨今の世界的な部品供給体制の混乱により納期に遅れが生じ、令和4年度末の完了予定が令和5年度末となった。
計 画 (Plan)		
今年度の取組内容		・長期停電への対策 ①燃料タンクの増強については、潮見台配水所及び高石配水塔への整備を推進します。 ・浸水想定区域内に含まれる施設の浸水対策(耐水化) ②浸水対策については、稲田取水所及び工水管3・6号さく井への整備を推進します。

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・長期停電への対策 ①燃料タンクの増強については、潮見台配水所の整備に着手しました。また、高石配水塔の整備については、令和6年度の開始に向けて、詳細設計業務委託を完了しました。なお、潮見台配水所については、令和4年度に着手し、令和5年度に完成する予定でしたが、入札不調となり、令和5年度に完了できませんでした。なお、現在の完了予定は令和6年度となっております。 ・浸水想定区域内に含まれる施設の浸水対策（耐水化） ②浸水対策については、稲田取水所、工水管3号さく井、工水6号さく井の浸水対策工事が完了しました。なお、浸水対策工事を予定していた工水管1号さく井については、令和3年度の詳細検討の結果、浸水想定水位では浸水しないことが判明したため、対策が不要となっております。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
		説明										
1	活動指標	非常用自家発電燃料タンクの増強（計画期間内）		計画目標値	－	－	1	1	7	7		施設
		説明	長期停電のための非常用自家発電設備のタンク増強整備が完了した施設数	実績	－	－	0					
2	活動指標	施設の防水壁等整備（計画期間内）		計画目標値	－	2	4	4	5	5	4	施設
		説明	浸水対策のための防水壁等の整備が完了した施設数	実績	－	－	3					
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算決算 （単位：千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費（4年間）			
		水道	予算額	水道事業については、取組18「施設の計画的更新」に含まれる。								
			繰越									
			予算額									
			決算額									
		工水	予算額	45,540	92,205			137,745	1,300,000			
			繰越		9,610			9,610				
予算額												
決算額	0		96,813			96,813						

評価（Check）				
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	4	活動指標である「非常用自家発電燃料タンクの増強（計画期間内）」については、潮見台配水所の整備が入札不調により、令和5年度に発注し、令和6年度の完成となったため、目標を下回りました。引き続き高石配水塔の整備とともに、取り組みを推進する必要があります。 活動指標である「施設の防水壁等整備（計画期間内）」については、目標を達成しております。残る1施設の対策実施に向けて、引き続き取組を推進する必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	成果指標である「非常用自家発電燃料タンクの増強（計画期間内）」は、目標を下回ったものの、「施設の防水壁等整備（計画期間内）」は、1施設が対策不要となったことから目標を達成しており、停電や河川氾濫等が生じた場合においても市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水、工業用水の供給維持に繋がっていることから、施策に貢献しています。	

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	停電や河川氾濫等が発生した場合においても、市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水を安定的に供給するため、停電対策・浸水対策を引き続き推進します。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔危機管理〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	災害時の機能維持		
	施策4	水道・工業用水道の危機管理対策		
	取組16	災害対応能力の強化		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		大規模地震や風水害などに対する災害対応能力の強化を進めることにより、発災時の水道サービス低下による市民生活への影響を最小限に抑えます。		
取組の概要		大規模地震や激甚化・頻発化する風水害などを踏まえ、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善を継続的に行い、上下水道局防災計画及び業務計画の検証・見直しによる実効性の向上、災害対応能力の強化を進めます。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・PDCAサイクルによる上下水道局防災計画及び業務継続計画の検証・見直し ・職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施 ・地域住民の協力による応急給水訓練の継続的な実施 ・応急復旧用資材の備蓄や燃料・薬品の確保など事前対策(予防対策)の推進 ・水道技能スペシャリスト制度による水道技能の維持向上及び継承 ・災害用通信体制の構築		
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	①職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施 ②ビデオ会議システム及び内線電話システムの構築
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			①職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施については、情報連絡訓練や相互応援訓練等を6回実施し、実施後のアンケート調査結果による理解度向上率も目標を達成し、災害対応力の強化を図ることができました。 ②ビデオ会議システムについては、本庁舎、長沢浄水場、等々力水処理センターの3拠点における令和6年7月からの運用開始に向けシステム納入業者とシステム構成を決定しました。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	局訓練・研修後のアンケート調査結果による理解度	説明	理解度向上者数／アンケート回答者×100(%)（年平均）	計画目標値	－	80	80	80	80	80		%
				実績	－	94	97					
2		説明		計画目標値	－							
				実績								
3		説明		計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位：千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費（4年間）				
	水道	予算額	53,475	67,500			120,975	400,000				
		繰越					0					
		予算額 決算額	42,627	50,075			92,702					
	工水	予算額	2,668	6,304			8,972	100,000				
		繰越					0					
		予算額 決算額	1,320	1,382			2,702					

評価（Check）			
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔危機管理〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	災害時の機能維持		
	施策 4	水道・工業用水道の危機管理対策		
	取組 17	災害時の連携強化		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		大規模地震や風水害などに対する災害対応能力の強化を進めることにより、発災時の水道サービス低下による市民生活への影響を最小限に抑えます。		
取組の概要		大規模地震や激甚化・頻発化する風水害などを踏まえ、広域的な応援体制の構築につながる大都市等との訓練の継続的な実施により、災害時の連携強化を進めます。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・他事業体と連携した訓練の継続的な実施 ・(公社)日本水道協会、大都市間等との広域連携による応援体制の強化 ・民間事業者との協力体制の充実 ・工業用水道利用者協議会等との連絡調整による工業用水道利用者との情報共有		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	①他事業体と連携した訓練の継続的な実施
----------	---------------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

①他事業体と連携した訓練については、日本水道協会による訓練や、協定や覚書を締結している他都市間との相互応援訓練を6回実施し、災害時の連携強化を図ることができました。

指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1		説明		計画目標値	－							
				実績								
2		説明		計画目標値	－							
				実績								
3		説明		計画目標値								
				実績								
予算 決算 (単位：千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		水道	予算額	取組16「災害対応能力の強化」に含まれる。								
			繰越									
			予算額									
			決算額									
			予算額						0			
			繰越						0			
予算額						0						
			決算額						0			

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	実効性を高めるための訓練を継続して行う必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	各種災害対策訓練の実施により防災対応能力の向上や災害時の連携が図れたことから、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II	災害時の連携を強化していくためには、事業体間の情報共有や訓練が重要であるため、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善等の取組を継続していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道計画課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	水道・工業用水道施設・管路の適切な管理と更新【持続】
	施策5	水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策
	取組18	施設の計画的更新
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		施設の計画的更新により、市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水の安定給水が確保できます。
取組の概要		アセットマネジメントに基づき、適切な維持管理を実施し、施設の長寿命化を図るとともに、将来の更新需要の見通しを検討し、優先度を定めながら計画的な施設の更新を実施します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		●水道事業 ・施設の更新・長寿命化 ①長沢浄水場排水処理施設 ②千代ヶ丘配水塔(1号塔)(令和6年度未完了) ③鷺沼配水池 ④高石配水塔(令和5年度未完了) ・主要設備の計画的な更新 ⑤主要設備 ●工業用水道事業 ・施設の更新 ①長沢浄水場排水処理施設 ・主要設備の計画的な更新 ⑤主要設備
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計画 (Plan)	
今年度の取組内容	●水道事業 ・施設の更新・長寿命化 ①長沢浄水場排水処理施設の更新の推進 ④高石配水塔の長寿命化の完了 ・主要設備の計画的な更新 ⑤主要設備の更新の継続 ●工業用水道事業 ・施設の更新 ①長沢浄水場排水処理施設の更新の推進 ・主要設備の計画的な更新 ⑤主要設備の更新の継続

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

- 水道事業
 - ・施設の更新・長寿命化
 - ①長沢浄水場排水処理施設の更新工事を推進しました。
 - ④高石配水塔の長寿命化工事を完了しました。
 - ・主要設備の計画的な更新
 - ⑤千代ヶ丘送水流量計等の更新を完了しました。
- 工業用水道事業
 - ・施設の更新
 - ①長沢浄水場排水処理施設の更新工事を推進しました。
 - ・主要設備の計画的な更新
 - ⑤生田浄水場排水処理施設の監視制御装置改良工事を推進しました。

指標分類		指標名				目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明												
1						計画目標値	－							
						実績								
		説明					計画目標値	－						
実績														
2						計画目標値	－							
						実績								
		説明					計画目標値							
実績														
3						計画目標値								
						実績								
		予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
水道	予算額			2,300,394	2,739,242			5,039,636	8,800,000					
	繰越													
	予算額			199,216	793,466			992,682						
	決算額			766,569	2,216,886			2,983,455						
工水	予算額			371,382	1,528,074			1,899,456	5,300,000					
	繰越													
	予算額			314,605	193,781			508,386						
	決算額			521,318	612,597			1,133,915						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	引き続き、アセットマネジメントに基づき、維持管理情報や健全度調査結果等から、更新もしくは長寿命化を適切に判断し、優先度を定めながら施設を計画的に更新・長寿命化を進める必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	各施設の更新、長寿命化を確実に進めており、市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水、工業用水の安定給水に繋がっていることから、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水の安定給水を確保するため、引き続き、施設の計画的更新を推進します。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道計画課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	水道・工業用水道施設・管路の適切な管理と更新【持続】
	施策5	水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策
	取組19	管路の計画的更新
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		管路の計画的更新により、市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水の安定給水を確保するとともに、漏水等による二次災害防止を図ります。
取組の概要		口径350mm以下の小口径管路については、使用年数60年以内での更新を進めます。 口径400mm以上の中大口径管路は、材質や接手形式のほか、重要度や耐震性などを考慮し、計画的に更新を進めます。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		●水道事業 ・管路の更新(計画期間内の更新延長160km) ●工業用水道事業 ・管路の更新(計画期間内の更新延長2.5km)
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	●水道事業 ・管路の更新(計画期間内の更新延長160km) ①更新時期を迎えた管路の更新を推進します。(年間目標40km) ●工業用水道事業 ・管路の更新(計画期間内の更新延長2.5km) ①更新時期を迎えた管路の更新を推進します。(3路線約2.5km)

実施結果（Do）													
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			●水道事業 ・管路の更新の推進(計画期間内の更新延長160km) ①管路の更新については、約46.1kmの更新を実施しました。 ●工業用水道事業 ・管路の更新の推進(計画期間内の更新延長2.5km) ①管路の更新については、2路線の更新約1.6kmが完了しました。更新できなかった1路線においては、工事発注後に試掘調査を行った結果、当初想定された現場条件と異なり、仮設及び工法変更やガス管の切り回し等が必要となり、関係課所との協議・調整に多大な時間を要したことなどから、大幅な工期の延期となったため、令和7年度中の完成となりました。										
			指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値
1	活動 指標	水道管路の更新延長(計画期間内)			計画目標値	－	40	80	120	160	160		km
		説明	計画期間内における水道管路の更新延長		実績	－	48.1	94.2					
2	活動 指標	工業用水道管路の更新延長(計画期間内)			計画目標値	－	－	2.5	—	—	2.5		km
		説明	計画期間内における工業用水道管路の更新延長		実績	－	－	1.6					
3					計画目標値								
					実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
		水道	予算額	水道事業については、取組 1 0 「水道管路の耐震化」に含まれる。									
			繰越										
			予算額										
		工水	決算額										
			予算額	1,066,629	595,355			1,661,984	1,700,000				
			繰越	68,928	557,180			626,108					
予算額													
決算額	204,721	827,557			1,032,278								
評 価（Check）													
今年度の 取組内容 に対する達成度		達成度区分			実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)								
		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		3	活動指標である「工業用水道管路の更新延長」は、1路線が想定外の現場条件により大幅な工期延期となったため目標を下回りましたが、「水道管路の更新延長」は、目標を上回って達成しております。引き続き、関係課所との協議、調整を円滑に図りながら、更新時期を迎えた管路の計画的な更新を進める必要があります。								
施策への 貢献度		貢献度区分			施策の貢献度区分を選んだ理由								
		A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		A	成果指標である「工業用水道管路の更新延長」は、目標を下回りましたが、「水道管路の更新延長」は、目標を達成しており、市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水、工業用水の安定給水に繋がっていることから、施策に貢献しています。								
改 善（Action）													
今後の取組の 方向性		方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性								
		Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 改善しながら継続 Ⅲ. 取組規模拡大 Ⅳ. 取組規模縮小 Ⅴ. 取組廃止 Ⅵ. 取組終了		Ⅰ	市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水の安定給水を確保するため、引き続き、管路の計画的更新を推進します。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	水道・工業用水道施設・管路の適切な管理と更新【持続】		
	施策5	水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策		
	取組20	施設・管路の将来構想		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		拡張期に整備を進めてきた多くの施設や管路が今後一斉に更新時期を迎えることから、将来の需要動向を踏まえつつ、アセットマネジメントに基づく計画的な更新の実施に向け、検討を行います。		
取組の概要		中長期的な視点から重要度や経年度を考慮しつつ、財政収支との整合を図りながら、需要に応じた施設・管路の更新計画を策定するために、基幹管路の健全度調査等に基づく使用可能年数や水需要の変化等を踏まえた適正口径の検討などを実施します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		●水道事業 ・健全度調査等に基づく基幹管路の使用可能年数の検討 ・水需要の変化等を踏まえた適正口径の検討 ・基幹管路の更新を見据えたバックアップ機能の強化(二重化・ネットワーク化)の検討・実施 ●工業用水道事業 ・工業用水道利用者の需要動向を踏まえ、老朽化が進行する施設及び送水管路の更新に向けた検討・調整		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所		
		変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	●水道事業 ・健全度調査等に基づく基幹管路の使用可能年数の検討 ①既設管の管体調査結果を踏まえた使用可能年数の検討を行います。 ・水需要の変化等を踏まえた適正口径の検討 ②水需要の変化等を踏まえた適正口径の検討を実施します。 ・基幹管路の更新を見据えたバックアップ機能の強化(二重化・ネットワーク化)の検討・実施 ②基幹管路の二重化・ネットワーク化の検討を行うとともにバックアップ機能の整備を行います。 ●工業用水道事業 ・工業用水道利用者の需要動向を踏まえ、老朽化が進行する施設及び送水管路の更新に向けた検討・調整 ③④川崎市上下水道局経営審議委員会の答申を踏まえ、施設及び送水管路の更新計画の策定を行います。
----------	---

実施結果（Do）													
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				●水道事業 ・健全度調査等に基づく基幹管路の使用可能年数の検討 ①更新時に発生する撤去管の管体調査による蓄積されたデータをもとに、業務委託を発注し、専門的な知見からの基幹管路の使用可能年数の検討を行いました。 ・水需要の変化等を踏まえた適正口径の検討 ②今後予定している基幹管路の更新対象路線の適正口径の検討を行いました。 ・基幹管路の更新を見据えたバックアップ機能の強化（二重化・ネットワーク化）の検討・実施 ②基幹管路の更新を見据えたバックアップ機能の強化（二重化・ネットワーク化）の検討を進めるとともに、1路線の整備に着手しました。 ●工業用水道事業 ・工業用水道利用者の需要動向を踏まえ、老朽化が進行する施設及び送水管路の更新に向けた検討・調整 ③④需要動向を踏まえた工業用水道施設・管路の将来構想の検討については、川崎市上下水道事業経営審議委員会の答申を踏まえ、令和6年度の基幹施設更新基本計画策定に向けて、新しく送水管を整備せず既存施設の平間配水所と上水受水を活用した3本の送水管の更新や、リスク等を考慮した長沢浄水場の更新に関する基本計画案をとりまとめました。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
		説明											
1		説明			計画目標値								
					実績								
2		説明			計画目標値								
					実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
		水道	予算額	水道事業については、取組10「水道管路の耐震化」に含まれる。									
			繰越										
			予算額										
			決算額										
		工水	予算額	19,030	0			19,030	20,000				
			繰越					0					
			予算額										
決算額	17,490		0			17,490							

評価（Check）				
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	引き続き、将来の需要動向を踏まえつつ計画的な更新の実施に向け、検討を進める必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	管体調査によるデータの蓄積、水需要の変化等を踏まえた適正な施設への検討、バックアップ機能強化に向けた計画的な更新工事の実施や検討を確実に推進しており、将来の需要動向を踏まえつつ、アセットマネジメントに基づく計画的な更新の実施に繋がることから、施策に貢献しています。	

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	市民生活や工業用水道利用者の経済活動に必要な水道水・工業用水の安定給水を確保するため、引き続き、計画的な更新の実施に向けた検討を推進します。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道管理課
-----	-------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	水道・工業用水道施設・管路の適切な管理と更新【持続】		
	施策 6	水道・工業用水道の施設・管路の維持管理		
	取組 21	施設の維持管理		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		施設・管路などを適切に維持管理することで、機能を維持し、安定給水の確保、施設の長寿命化及び漏水等の防止を図ります。		
取組の概要		施設の日常点検、定期点検を適切な頻度、内容で実施し、また、点検等に伴い維持管理データを蓄積し、蓄積した維持管理データを効率的かつ効果的な維持管理へ活用します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・施設点検の定期的な実施 ①施設の日常点検(巡視)、定期点検(月次・3か月・6か月・年次)を適切に実施します。 ・維持管理データの蓄積及び効率的かつ効果的な維持管理への活用 ②施設の管理台帳から運転管理や点検調査等で得られた維持管理データを蓄積し、それらを活用して効率的かつ効果的な維持管理を実施します。		
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	・施設点検の定期的な実施 ①施設の巡視及び定期点検を実施し、異常個所の早期発見や補修作業を適切に行い、施設の長寿命化を図ります。 ・維持管理データの蓄積及び効率的かつ効果的な維持管理への活用 ②維持管理のより効率的、効果的な実施に向けて、維持管理データと設備台帳を統一的に管理するため、水道設備管理システムを適切に運用します。
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			・施設点検の定期的な実施 ①浄水場、配水施設等の日常点検（巡視）、定期点検（月例、3か月、6か月、年次）を行い、異常個所の早期発見や補修作業を適切に実施しました。 ・維持管理データの蓄積及び効率的かつ効果的な維持管理への活用 ②より効率的、効果的な維持管理を実施するため、維持管理データと設備台帳を統一的に管理するため、システムを適切に運用しました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明			計画目標値	－							
				実績								
2	説明			計画目標値	－							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位：千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
		水道	予算額	1,298,047	1,202,064			2,500,111	4,700,000			
			繰越					0				
			予算額 決算額	934,332	1,443,035			2,377,367				
		工水	予算額	857,272	879,363			1,736,635	2,700,000			
			繰越					0				
			予算額 決算額	744,572	846,920			1,591,492				
評価（Check）												
今年度の取組内容に対する達成度		達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	適切な維持管理を継続的に行うことにより、施設の長寿命化を図りました。 より効果的、効率的な維持管理を実施するため、ミクロマネジメント実施に向けた維持管理データの蓄積、システムの運用を継続する必要があります。								
施策への貢献度		貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由								
		A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	適切な維持管理を行い、施設の長寿命化に貢献しました。								
改善（Action）												
今後の取組の方向性		方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性								
		I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	今後も継続して適切に維持管理を実施し、施設の長寿命化を図ります。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道管理課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	水道・工業用水道施設・管路の適切な管理と更新【持続】
	施策 6	水道・工業用水道の施設・管路の維持管理
	取組 22	管路の維持管理
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		水道・工業用水道管路の地下漏水を早期発見し、安定給水の確保と安全性の向上を図ります。
取組の概要		河川を横断する管路など目視可能な箇所の点検・調査を定期的に行い、ICTや新技術を活用しながら地下漏水調査を実施し、漏水が発生した際には迅速に管路修理を実施します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・管路の点検・調査及び修理 ①管路の点検・調査、修理の実施 ・ICTなどを活用した地下漏水調査・水圧管理 ②ICTなどを活用した地下漏水調査・水圧管理の実施 ・給配水情報管理システムの活用・一部情報のウェブサイトでの公開 ③給配水情報管理システムの活用、一部情報のウェブサイトでの公開 ・民間企業等との漏水検知に関する共同研究 ④民間企業等との漏水検知に関する共同研究の実施
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	・管路の点検・調査及び修理 ①管路の点検・調査、修理を実施します。 ・ICTなどを活用した地下漏水調査・水圧管理 ②ICTなどを活用した地下漏水調査・水圧管理を実施します。 ・給配水情報管理システムの活用・一部情報のウェブサイトでの公開 ③給配水情報管理システムを活用し、一部情報をウェブサイトで閲覧するためのシステム構築に着手します。 ・民間企業等との漏水検知に関する共同研究 ④民間企業等との共同研究に向けた調査を実施します。

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

- ・管路の点検・調査及び修理
 - ①河川を横断する管路や共同溝内の管路など目視可能な箇所の点検・調査を定期的の実施し、異常がないことを確認しました。
 - ①漏水が発生した管路の修理を適切に実施しました。
 - ①自然漏水の漏水修理件数は1267件でした。
- ・ICTなどを活用した地下漏水調査・水圧管理
 - ②漏水の早期発見に向けて、IoT技術を活用した遠隔監視システムを使用した漏水調査を実施しました。
 - ②マッピングシステムを活用し、次年度以降の地下漏水調査区画の優先順位を定めました。
 - ②地下漏水調査を市内790km実施しました。
 - ②地下漏水発見効率は0.19件/kmでした。
- ・給配水情報管理システムの活用・一部情報のウェブサイトでの公開
 - ③給配水情報管理システムを活用し、一部情報をウェブサイト上で閲覧するためのシステムを構築しました。
- ・民間企業等との漏水検知に関する共同研究
 - ④民間企業に対し管路の維持管理や漏水調査に関する機器の情報収集や共同研究などに関するヒアリングを実施しました。

指標分類		指標名			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明											
1	活動 指標	地下漏水発見効率			計画目標値	－	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20		件/km
		説明	漏水調査1kmあたりの漏水発見件数		実績	0.20	0.17	0.19					
2					計画目標値	－							
		説明			実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業		予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度		R7年度		合計	計画事業費 （4年間）	
		水道		予算額	687,945	428,948					1,116,893	1,900,000	
				繰越 予算額	104,434	10,954					115,388		
				決算額	648,123	479,979					1,128,102		
		工水		予算額	42,409	23,563					65,972	300,000	
				繰越 予算額		2,196					2,196		
				決算額	27,228	41,530					68,758		

評価（Check）

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	目標をほぼ達成しましたが、漏水件数自体が減少傾向にあり、それに合わせて調査延長1kmあたりの漏水件数も減少していると考えられることや、漏水が発生していない区画を選定した可能性もあると考えられるため、今後の推移を注視していきます。 管路の維持管理は、貴重な水資源を有効に活用し、道路陥没や浸水、水質事故などの二次災害にも影響を与えるため、迅速な漏水修理対応を行う必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	管路の点検・調査・修理、水圧管理、給配水情報管理システムの一部情報のウェブサイトでの公開、民間企業等との漏水検知に関する共同研究等に取り組むとともに、給配水情報管理システムやICTなどを活用した地下漏水調査を実施した結果、漏水調査1kmあたりの漏水発見件数＝0.19件/kmとなり、目標をほぼ達成しました。これにより、安定給水の確保、漏水等の防止を得られたことから、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	マッピングシステムを活用し、管路の布設状況や漏水履歴を考慮して地下漏水調査区画に優先順位を定め、効率的な漏水調査を実施し、漏水修理を実施しました。 目標をほぼ達成しましたが、漏水発生件数自体が減少傾向にあり、それに合わせて調査延長1kmあたりの漏水発見件数も減少している可能性があるため、漏水発生件数の推移を注視する必要があります。 今後は、効率的な漏水調査を行うために地下漏水調査区画の優先順位や調査周期の見直しを行うとともに新技術に関する調査や共同研究などを実施しながら、現状の取組を継続して実施します。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

		所管課	水道管理課
取組の概要			
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 	
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給【安全・安心】	
	施策 6	水道・工業用水道の施設・管路の維持管理	
	取組 23	管路付属物の維持管理	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		管路付属物を適切に維持管理することにより、安全な水の安定供給を確保します。	
取組の概要		送配水管において、漏水の大部分を占める管路付属物(空気弁・仕切弁等)の計画的な点検・調査及び修理を継続的に実施します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・管路付属物の的確な情報把握と計画的な点検・調査及び修理 ①管路付属物の点検・調査、修理の実施	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所	
		変更理由	

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	・管路付属物の的確な情報把握と計画的な点検・調査及び修理 ①中大口径管路の長寿命化を図るために、管路付属物130箇所の点検・調査を実施します。

実施結果（Do）

(上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)

①管路付属物の点検・調査を131箇所実施しました。

指標分類		指標名				目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明												
1	成果 指標	空気弁及び仕切弁点検箇所数(中大口径管路)				計画目標値	－	130	260	390	520	520 (R4～ 7年度)		箇所
		説明				実績	130	129	260					
2						計画目標値	－							
		説明				実績								
3						計画目標値								
		説明				実績								
予算 決算 (単位： 千円)	事業		予算・決算		R4年度	R5年度	R6年度		R7年度		合計		計画事業費 (4年間)	
	水道		予算額	16,317	16,193					32,510	70,000			
			繰越					0						
			予算額											
	工水		決算額	15,883	17,815					33,698	20,000			
			予算額	5,545	3,708					9,253				
			繰越							0				
			予算額											
			決算額	5,787	3,622					9,409				

評価 (Check)

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		3	実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
施策への 貢献度	貢献度区分		A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	管路施設の安全と安定給水を確保するため、管路付属物の的確な情報把握と計画的な点検・調査及び修理を継続的に実施していきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道管理課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		   
	10年間の方向性	良質で安全な水の安定供給【安全・安心】		
	施策6	水道・工業用水道の施設・管路の維持管理		
	取組24	給水管の保全		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		給水管からの漏水を防止することにより、良質で安全な水道水を安定して供給できるようにします。		
取組の概要		・老朽化した給水管は、水質への影響や漏水による道路陥没などの二次災害のおそれがあることから、公道部と私有地の一部の老朽給水管を対象に更新します。 ・配水管が埋設されていない公道部で、給水管が輻輳する路線を対象に配水管を新設し、輻輳している老朽給水管を解消します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・配水管更新工事等に伴う給水管の更新 ①配水管更新工事等に伴う給水管の更新 ・輻輳して埋設されている老朽給水管の解消 ②輻輳して埋設されている老朽給水管の解消		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	・配水管更新工事等に伴う給水管の更新 ①配水管更新工事等に伴い老朽給水管を更新します。 ・輻輳して埋設されている老朽給水管の解消 ②配水管が埋設されていない公道部を対象に配水管を布設し、輻輳する老朽給水管を解消します。
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・配水管更新工事等に伴う給水管の更新 ①配水管更新工事等に伴い老朽給水管を更新しました。 ・輻輳して埋設されている老朽給水管の解消 ②輻輳する老朽給水管の解消を3.0km実施しました。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	活動 指標	輻輳老朽管対策管路整備		計画目標値	－	3	6	9	11	11		km
		説明	輻輳老朽給水管対策路線の配水管布設延長(km)	実績	3.7	3.2	6.2					
2				計画目標値	－							
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 （単位： 千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
	水道	予算額	1,029,210	1,476,626			2,505,836	4,500,000				
		繰越					0					
		予算額										
		決算額	883,721	1,293,999			2,177,720					
		予算額					0					
		繰越					0					
		予算額					0					
決算額						0						

評価（Check）			
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		3 老朽給水管の更新・解消を推進するためには、取組内容と目的を所有者・使用者へ丁寧に説明し、所有者・使用者から工事への協力・理解を得て、適正な進捗管理のもと工事を施工する必要があります。
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		A 配水管更新工事等に伴う老朽給水管の更新及び給水管が輻輳する路線を対象とした配水管の新設による老朽給水管の解消により、給水管からの漏水が防止できていることから、施策である水道の管路の維持管理に貢献しています。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 改善しながら継続 Ⅲ. 取組規模拡大 Ⅳ. 取組規模縮小 Ⅴ. 取組廃止 Ⅵ. 取組終了		Ⅰ 配水管更新工事等に伴い老朽給水管を更新するとともに、配水管が埋設されていない公道部で給水管が輻輳する路線を対象に配水管を新設し老朽給水管を解消することにより、更なる安定給水の確保と安全性の向上のための取組を推進していきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道管理課
-----	-------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	水環境・地球環境への配慮【環境】		
	施策7	水道・工業用水道の地球温暖化対策		
	取組25	再生可能エネルギーの有効利用		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		環境に配慮した事業運営に取り組んでいくため、再生可能エネルギーを有効利用することで、地球温暖化対策に貢献します。		
取組の概要		地形や水位の高低差を利用した小水力発電や配水池上部等を利用した太陽光発電など再生可能エネルギーの有効利用を継続して実施するとともに、更なる再生可能エネルギーの活用に向けた検討を実施します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・再生可能エネルギーの有効利用 ①小水力発電の継続(鷺沼配水池、江ヶ崎制御室、平間調整池) ②太陽光発電の継続(長沢浄水場、生田配水池) ・再生可能エネルギーの活用に向けた検討 ③再生可能エネルギーの活用に向けた検討の実施		
当初の計画からの変更 箇所とその理由(取組の 概要、計画期間の取組内容や 計画目標値を変更して進捗管 理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	・再生可能エネルギーの有効利用 ①小水力発電については、鷺沼配水池、江ヶ崎制御室、平間調整池の発電設備による発電を継続し、売電します。 ②太陽光発電については、長沢浄水場及び生田配水池の施設上部を利用した発電設備により発電を継続し、生田配水池については売電、長沢浄水場については場内で自家消費します。 ・再生可能エネルギーの活用に向けた検討 ③再生可能エネルギーの活用に向けた検討については、末吉配水池上部への太陽光発電設備の導入に向けて環境局との調整や発注準備を進めるとともに、江ヶ崎制御室小水力発電設備更新の共同事業者を選定を進めます。
----------	--

実施結果（Do）

(上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)

①小水力発電については、鷺沼配水池、江ヶ崎制御室、平間調整池の発電設備による発電を継続し、鷺沼と平間では昨年度よりも多く売電しました。

②太陽光発電については、長沢浄水場及び生田配水池の施設上部を利用した発電設備により発電を継続し、生田配水池については昨年度よりも多く売電、長沢浄水場についても昨年度よりも多く場内で自家消費しました。

・再生可能エネルギーの活用に向けた検討

③末吉配水池への太陽光発電設備の導入に向けて環境局と調整を進めました。また、江ヶ崎制御室小水力発電設備の更新については、共同事業者の選定のための準備等を進めました。

指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
		説明											
1	成果 指標	再生可能エネルギーによる発電量			計画目標値	－	3,790,000	3,790,000	3,520,000	3,520,000	3,790,000		kWh
		説明	鷺沼配水池、江ヶ崎制御室、平間調整池の水力発電設備と生田配水池、長沢浄水場の太陽光発電設備の年間発電電力量合計値		実績	3,703,330	3,864,798	4,156,544					
2					計画目標値	－							
		説明			実績								
3					計画目標値								
		説明			実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
決算額						0							

評価 (Check)

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		2	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			今後も継続的に再生可能エネルギーを有効利用するために、共同事業者と連携し、施設の適切な維持管理・運用を行うとともに、新たな設備の導入や既存設備の更新に向けた検討を進める必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		A	施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			浄水場と配水池等の高低差を利用した小水力発電や、水道・工業用水道施設の上部を利用した太陽光発電など再生可能エネルギーを有効利用することにより、二酸化炭素の発生を抑制し、地球温暖化対策に貢献しています。	

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	今後も継続して地球環境へ配慮し、既存発電施設の再生可能エネルギーを有効に利用するとともに、再生可能エネルギーの更なる活用に向けて、施設上部への太陽光発電設備の導入など検討を進めます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道管理課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上    
	10年間の方向性	水環境・地球環境への配慮
	施策7	水道・工業用水道の地球温暖化対策
	取組26	省エネルギー対策
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		自然流下方式による水道システムの継続や上流取水の優先的利用、設備更新に合わせた高効率機器・省エネルギー機器の導入など、省エネルギー対策の実施により、地球温暖化対策に貢献します。
取組の概要		省エネルギー対策として、地形の高低差による位置エネルギーを生かした自然流下による水道システムを継続するとともに、本市浄水場の統廃合に伴い未利用となった相模川上流の水源水量(14.2万m ³ /日)を活用し、企業団西長沢浄水場の取水の一部を下流から上流へ振り替え、導水ポンプの消費電力を削減する、上流取水の優先的利用の取組を進めます。また、設備更新などに合わせて、エネルギー使用の合理化に関する法律の基準を満たしたトップランナー機器の導入やLED照明設備等の高効率機器・省エネルギー機器の導入を進めます。
計画期間の取組内容(R4～R7)		・自然流下による水道システムの継続 ・上流取水の優先的利用の推進 ・高効率機器・省エネルギー機器の導入
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計画(Plan)	
今年度の取組内容	・自然流下による水道システムの継続 ①地形の高低差による位置エネルギーを生かした自然流下による水道システムを継続します。 ・上流取水の優先的利用の推進 ②上流取水の優先的利用の推進については、未利用となった本市の水源水量(14.2万m³/日)を企業団西長沢浄水場で活用するため、水利使用許可申請の手続きを進めます。 ・高効率機器・省エネルギー機器の導入 ③高効率機器・省エネルギー機器の導入については、黒川配水池高圧電気設備を更新します。

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				・自然流下による水道システムの継続 ①地形の高低差による位置エネルギーを生かした自然流下による水道システムを継続しました。 ・上流取水の優先的利用の推進 ②上流取水の優先的利用については、水利使用申請において、河川管理者からの追加の資料要求等に対応し、水需要予測に係る資料等を提出するなど審査を進展させました。 ・高効率機器・省エネルギー機器の導入 ③高効率機器・省エネルギー機器の導入については、黒川配水池高圧電気設備更新がケーブル入手困難のため工期延期となり、令和6年度の完成予定となりました。また、さく井管6号電気設備改良工事、水管理センター空調設備更新工事を発注しました。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	成果 指標	温室効果ガス排出量の削減割合(2013年度比)		計画目標値	－	47	49.1	51.2	53.3	53.3		%
		説明	2013年度の温室効果ガス排出量に対する削減割合	実績	34.8	34.7	43.5					
2				計画目標値	－							
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
			決算額					0				
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
決算額						0						
評価（Check）												
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分			実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			4	自然流下による水道システムの継続、工業用水道の需要減等により、電気使用量は着実に減少していますが、契約電力会社の電力排出係数が地球温暖化対策推進基本計画の想定値を上回ったため、成果指標は目標値を下回りました。 高効率機器・省エネルギー機器の導入を遅延なく着実に実施し、市役所の温室効果ガス排出量を2030年度までに2013年度比50％削減、2050年度までに実質ゼロの達成を目指し、引き続き、省エネルギー対策を推進していく必要があります。							
施策への 貢献度	貢献度区分			施策の貢献度区分を選んだ理由								
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			B	契約電力会社の電力排出係数が想定値を上回ったことで成果指標の目標値を下回りましたが、自然流下による水道システムの継続及び高効率機器・省エネルギー機器の導入による、省エネルギー対策の取組を推進したことから、施策にやや貢献しています。							
改善（Action）												
今後の取組の方向性	方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性								
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 改善しながら継続 Ⅲ. 取組規模拡大 Ⅳ. 取組規模縮小 Ⅴ. 取組廃止 Ⅵ. 取組終了			Ⅰ	契約電力会社の電力排出係数が地球温暖化対策推進基本計画の想定値を上回ったため、成果指標は目標値を下回っています。 市役所の温室効果ガス排出量を2030年度までに2013年度比50％削減、2050年度までに実質ゼロの達成を目指し、引き続き、自然流下による水道システムの継続、上流取水の優先的利用の推進、施設更新に合わせた高効率機器・省エネルギー機器の導入を継続します。							

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	水道管理課
-----	-------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上 
	10年間の方向性	
	施策 8	水道・工業用水道の資源・施設の有効利用
	取組 27	資源・施設の有効利用
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		浄水発生土を有効に利用し、水環境・地球環境へ配慮します。 施設の一部空間などの有効利用により、快適な地域環境の創造に貢献します。
取組の概要		浄水場における水処理の過程で発生する浄水発生土を埋戻し用の材料となる改良土の原材料やセメント原料等として有効に利用します。 水道・工業用水道施設の一部空間などの有効利用の継続と環境整備を進めます。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・浄水発生土の有効利用(長沢浄水場:改良土の原材料、セメント原材料等、生田浄水場:改良土の原材料) ①長沢浄水場・生田浄水場の浄水発生土の有効利用 ・施設の一部空間などの有効利用の継続及び環境整備(鷺沼配水池、生田配水池、生田浄水場など) ②施設上部空間などの有効利用
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計画 (Plan)	
今年度の取組内容	①長沢浄水場・生田浄水場の浄水発生土の有効利用 浄水場の浄水処理過程で発生する浄水発生土を改良土の原材料等として、有効利用します。 ②施設上部空間などの有効利用 施設の一部空間などの有効利用を継続します(鷺沼配水池、生田配水池、生田浄水場など)

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

- ①長沢浄水場・生田浄水場の浄水発生土の有効利用
浄水発生土を改良土の原材料として利用し、有効利用を継続しました。
②施設上部空間などの有効利用
施設の一部空間などの有効利用を継続しました（鷺沼配水池、生田配水池、生田浄水場など）

指標分類		指標名			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明											
1	成果 指標	浄水発生土有効利用率			計画目標値	100	100	100	100	100	100	100	%
		説明	浄水発生土の年間有効利用量／浄水発生土の年間排出量×100(%)			実績	100	100	100				
2					計画目標値	－							
		説明				実績							
3					計画目標値								
		説明				実績							
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	・環境にやさしいリサイクル原料として安定的な処分先の確保をしていく必要があります。 ・施設の一部空間などの有効利用により、快適な地域環境の創造に貢献していく必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	・浄水発生土の有効利用率100%を維持し、循環型システムの構築及び環境負荷の低減に寄与しています。 ・施設の一部空間などの有効利用を継続（鷺沼配水池、生田配水池、生田浄水場など）し、快適な地域環境の創造に貢献することができました。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	・今後も持続可能な循環型社会の構築に寄与するため、浄水発生土の有効利用を継続して行っていく予定です。 ・引き続き、施設の一部空間などの有効利用により、快適な地域環境の創造に貢献していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅰ	安定給水の確保と安全性の向上		
	10年間の方向性	水環境・地球環境への配慮【環境】		
	施 策 8	水道・工業用水道の資源・施設の有効利用		
	取 組 28	再生資源利用の推進		
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		水道・工業用水道の工事を行う際に発生する建設副産物を可能な限り再資源化し、工事資材に積極的に活用するなど環境型社会の構築を図ります。		
取組の概要		水道・工業用水道工事で発生するアスファルトコンクリート等は可能な限り再資源化し、工事資材に積極的に活用するなど環境型社会の構築に向けた環境施策を継続的に実施します。		
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・再生資源材料の工事への積極的な採用 ①再生資源材料の採用の推進 ・工事で発生した建設副産物のリサイクルの推進 ②建設副産物リサイクルの推進		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	①アスファルトコンクリート等の再生資源材料を水道・工業用水道工事において積極的に採用します。 ②解体工事や撤去工事において発生するアスファルトコンクリート等の建設副産物を可能な限り再資源化します。
----------	---

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

- ①アスファルトコンクリート等の再生資源材料を水道・工業用水道工事において積極的に採用しました。
②解体工事や撤去工事において発生するアスファルトコンクリート等の建設副産物を可能な限り再資源化しました。

指標分類		指標名			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明											
1		説明			計画目標値								
					実績								
2		説明			計画目標値								
					実績								
3		説明			計画目標値								
					実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
			予算額					0	—				
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
		予算額					0						
決算額					0								

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	建設発生土を改良土として計画的かつ継続的に利用するためには、その受け入れ先である改良土プラントと事前の利用調整が不可欠です。現在、市が指定する改良土プラントは1社しかないことから、必要とする改良土の土量を大幅に変更する場合などは、十分に基幹的余裕をもって調整する必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	再生資源材料の工事への積極的な採用、工事で発生した建設副産物リサイクルの推進の実施により、循環型社会の構築に貢献できたことから、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	今後も継続的に再生資源を工事資材として使用し、循環型社会の構築に貢献していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

下水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成							
	10年間の方向性	大雨・浸水への備え【安全・安心】							
	施 策 9	浸水対策							
	取 組 29	重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策							
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		浸水対策施設の整備を行うことで、浸水被害の最小化を図り、水害に強いまちづくりを進めます。							
取組の概要		浸水リスクの高い重点化地区において浸水対策を進めるとともに、令和元年東日本台風により浸水被害が発生した排水 樋管周辺地域をはじめ、地形的要因や排水施設の部分的な能力不足などにより発生している局地的な浸水箇所におい て、地域特性を踏まえた効果的な浸水対策を進めます。							
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・重点化地区に位置付けた6地区(三沢川地区、土橋地区、京町・渡田地区、川崎駅東口周辺地区、大島地区、観音川地 区)における対策の推進 ・局地的な浸水箇所における対策の推進(山王、宮内、諏訪、二子、宇奈根排水樋管周辺地域など) ・市内全域の排水樋管ゲートにおける電動化及び観測機器の設置等							
当初の計画からの変更 箇所とその理由 (取組の 概要、計画期間の取組内容や 計画目標値を変更して進捗管 理している場合に記入)		変更箇所							
		変更理由							

計 画 (Plan)

今年度の取組内容	①重点化地区における雨水管きよなどの整備の推進 ②局地的な浸水箇所における対策の推進 ③市内全域の排水樋管ゲートにおける電動化及び観測機器の設置等の推進
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果			①重点化地区における雨水管きよなどの整備の推進については、三沢川地区、土橋地区、京町・渡田地区において浸水対策工事を推進し、京町・渡田地区の先行整備地区（小田3丁目地内）の工事が完了しました。また、京町・渡田地区、大島地区、観音川地区において、互いに隣接する地区であることから、地区を跨る雨水貯留管としての機能も有する入江崎統合幹線による一体的な対策の実施に向けた検討及び関係部局との協議を実施しました。川崎駅東口周辺地区において、新たな雨水対策施設等の整備による効果的な対策の検討を実施しました。 ②局地的な浸水箇所における対策の推進については、山王排水樋管周辺地域においてバイパス管の工事が完了しました。また、ポンプゲート設備による中期対策の推進に向け、河川管理者との協議を進めました。 ③市内全域の排水樋管ゲートにおける電動化及び観測機器の設置等の推進については、宿河原排水樋管において整備を完了しました。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	活動 指標	浸水対策実施率（三沢川、土橋、京町・渡田、川崎駅東口周辺、大島、観音川地区）		計画目標値	－	29.3	32.1	35.3	40.8	40.8		％
		説明	重点化地区の浸水対策完了済面積／浸水対策重点化地区対象面積×100(%)	実績	26.4	29.0	32.1	－	－			
2	活動 指標	排水樋管周辺地域の浸水対策累計実施数		計画目標値	－	6 【65.2%】	7対策 【65.2%】	7対策 【65.2%】	7対策 【65.2%】	7対策 【床上浸水面積 65.2% 解消】		対策 (%)
		説明	排水樋管周辺地域（山王、宮内、諏訪、二子、宇奈根地域）における短期対策、当面の対策、中期対策（計11対策）の実施数 【 】の値は、令和元年東日本台風当日の床上浸水面積に対する解消率（想定）を示す。なお、中期対策が供用された場合（令和9（2027）年度予定）、75.4%解消する見込み。	実績	5対策 【64.4%】	6 【65.2%】	7対策 【65.2%】	－	－			
予算 決算 （単位： 千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
	下水	予算額	1,592,146	1,079,920			2,672,066	13,700,000				
		繰越					0					
		予算額										
		決算額	1,900,136	1,316,077			3,216,213					
		繰越					0					
		予算額					0					
		決算額					0					

評価（Check）

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	近年多発する局地的な大雨や令和元年東日本台風などにより浸水被害が発生していることから、浸水被害を軽減させる、より効果的・効率的な取組が必要となっています。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策を着実に進め、活動指標である「浸水対策実施率」などの目標値を達成し、浸水被害の軽減に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	重点化地区における浸水対策については、浸水被害の最小化を図り、水害に強いまちづくりを進めるため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。 局地的な浸水箇所における浸水対策については、排水樋管周辺地域において、中期対策の整備及び長期対策の実現に向けた取組を着実に進めます。 これらのハード対策に加え、内水ハザードマップの活動などの自助を促すためのソフト対策を組み合わせた複合的な対策を関係機関と連携しながら推進していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

下水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成		
	10年間の方向性	大雨・浸水への備え【安全・安心】		
	施 策 9	浸水対策		
	取 組 30	水処理センター・ポンプ場の耐水化		
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		水処理センター・ポンプ場の浸水対策を行うことで、浸水被害の最小化を図り、水害に強いまちづくりを進めます。		
取組の概要		河川氾濫等の災害時においても、最低限の下水処理など、一定の下水道施設の機能を確保するため、水処理センター・ポンプ場の耐水化を進めます。		
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・水処理センター・ポンプ場の耐水化の推進（江川ポンプ場ほか）		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	①水処理センター・ポンプ場の耐水化の推進(江川ポンプ場ほか)
----------	--------------------------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

①水処理センター・ポンプ場の耐水化の推進については、江川ポンプ場及び戸手ポンプ場において耐水化の工事が完了しました。

指標分類		指標名			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
		説明												
1	活動 指標	水処理センター・ポンプ場の耐水化率			計画目標値	－	50.0	58.3	70.8	83.3	83.3		%	
		説明	災害時の施設浸水に向けた対策が完了したポンプ場、水処理センター数/ポンプ場、水処理センター数 × 100(%)		実績	50.0	50.0	58.3	－	－				
2					計画目標値									
		説明			実績									
3					計画目標値									
		説明			実績									
予算 決算 (単位：千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)					
		下水	予算額	210,000	76,250			286,250	700,000					
			繰越					0						
			予算額											
			決算額	75,302	118,264			193,566						
				予算額					0					
				繰越					0					
		予算額						0						
			決算額					0						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	近年多発する局地的な大雨や令和元年東日本台風などにより浸水被害が発生していることから、浸水被害を軽減させる、より効果的・効率的な取組が必要となっています。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	水処理センター・ポンプ場の耐水化を着実に進め、活動指標である「水処理センター・ポンプ場の耐水化率」の目標値を達成し、浸水被害の軽減に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	水処理センター・ポンプ場の耐水化については、浸水被害の最小化を図り、水害に強いまちづくりを進めるため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。 また、国が洪水により想定される浸水深を見直したことから、耐水化計画の見直しに向けた検討を進めます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

下水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成							
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】							
	施 策 10	下水道の管きょ・施設の地震対策							
	取 組 31	下水管きょの地震対策							
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		下水管きょの地震対策を推進することで、大規模地震発生時においても下水道機能を確保し、市民生活を守ります。							
取組の概要		下水道機能の確保の優先度が高い避難所や重要な医療機関等と水処理センターとを結ぶ管きょを優先的に耐震化します。また、災害時にも下水処理機能を確保できるよう、水処理センターで発生する汚泥を処理施設に送る、汚泥圧送管を耐震化します。							
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・重要な管きょのうち、避難所や重要な医療機関と水処理センターとを結ぶ管きょの耐震化の推進 ・汚泥圧送管の耐震化の推進（麻生水処理センター～等々力水処理センターほか）							
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所								
	変更理由								

計画 (Plan)

今年度の取組内容	①重要な管きょの耐震化の推進(川崎駅以北) ②汚泥圧送管の地震対策の推進
----------	---

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①重要な管きよの耐震化の推進については、川崎駅以北の約4.7kmを実施しました。 ②汚泥圧送管の地震対策の推進については、麻生水処理センターから等々力水処理センターまでの約1.4kmを実施しまし た。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
		説明											
1	活動 指標	避難所や重要な医療機関と水処理セン ターとを結ぶ重要な管きよの耐震化率		計画目標値	－	71.9	77.6	83.3	89.0	89.0		%	
		説明	避難所や重要な医療機関と水処理セン ターとを結ぶ重要な管きよの耐震化完了 延長/避難所や重要な医療機関と水処 理センターとを結ぶ重要な管きよの延長 ×100(%)	実績	66.2	71.9	77.6	－	－				
2	活動 指標	重要な管きよの耐震化率		計画目標値	－	87.7	88.4	89.1	89.7	89.7		%	
		説明	重要な管きよの耐震化完了延長/重要な 管きよの延長×100(%)	実績	87.0	87.7	88.4	－	－				
3				計画目標値									
		説明		実績									
予算 決算 (単位： 千円)	事業		予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計		計画事業費 (4年間)			
	下水	予算額	2,805,378	3,957,916			6,763,294		11,800,000				
		繰越					0						
		予算額											
		決算額	3,288,277	4,121,565			7,409,842						
		予算額					0						
		繰越					0						
		予算額					0						
決算額						0							

評価（Check）

今年度の取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	今後想定される大規模地震発生時においても、必要な下水道機能の確保に努め、市民生活への影響を最小限にするための取組が求められています。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	下水管きよの地震対策を着実に進め、活動指標である「重要な管きよの耐震化率」などの目標値を達成し、大規模地震発生においても必要な下水道機能の確保に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I	下水管きよの地震対策について、被災時に必要となる下水道機能に重点化を図り、被災時においても市民生活への影響を最小限に抑える対策を進めるため、今後も継続して事業を推進していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成							
	10年間の方向性	災害時の機能維持【強靱】							
	施 策 10	下水道の管きょ・施設の地震対策							
	取 組 32	水処理センター・ポンプ場の地震対策							
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		水処理センター・ポンプ場の地震対策を推進することで、大規模地震発生時においても下水道機能を確保し、市民生活を守ります。							
取組の概要		市街地での下水の滞留・溢水を防止するため、下水を汲み上げ下流に流す機能(揚水機能)や、下水を消毒し公衆衛生を確保する機能(消毒機能)を持つ施設を優先的に耐震化します。							
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・水処理センターの揚水機能の確保(麻生水処理センター) ・ポンプ場の汚水揚水機能の確保(小向ポンプ場など) ・水処理センターの消毒機能の確保(入江崎水処理センター) ・燃料貯蔵容量の確保(麻生水処理センターなど) ・設備更新などに合わせた水処理センター・ポンプ場の耐震化の推進							
当初の計画からの変更 箇所とその理由(取組の 概要、計画期間の取組内容や 計画目標値を変更して進捗管 理している場合に記入)	変更箇所								
	変更理由								

計画(Plan)

今年度の取組内容	①水処理センター、ポンプ場の耐震化の推進
----------	----------------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

①水処理センター、ポンプ場の耐震化の推進については、大師河原ポンプ場において汚水揚水機能を確保に向けた工事が完了しました。入江崎水処理センターにおいて消毒機能確保に向けた工事を推進しました。入江崎水処理センターにおいて燃料貯蔵容量の確保に向けた工事が完了しました。

指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	活動 指標	水処理センターの揚水機能確保率		計画目標値	－	100	100	100	100	100		%
		説明	災害時の揚水機能の確保に向けた対策が完了した水処理センター数/水処理センター数×100(%)	実績	75.0	100	100	100	100			
2	活動 指標	ポンプ場の汚水揚水機能確保率		計画目標値	－	54.5	63.6	72.7	100	100		%
		説明	災害時の揚水機能の確保に向けた対策が完了したポンプ場数/汚水ポンプ場数×100(%)	実績	54.5	54.5	63.6	－	－			
3	活動 指標	水処理センターの消毒機能確保率		計画目標値	－	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0		%
		説明	災害時の消毒機能の確保に向けた対策が完了した水処理センター数/水処理センター数×100(%)	実績	50.0	50.0	50.0	－	－			
4	活動 指標	下水道施設の燃料貯蔵容量確保率		計画目標値	0	0	4.2	8.3	16.7	16.7		%
		説明	災害時の燃料貯蔵容量の確保に向けた対策が完了したポンプ場、水処理センター数、スラッジセンター数/ポンプ場、水処理センター、スラッジセンター数×100(%)	実績	0	0	4.2	－	－			
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		下水	予算額	1,190,791	754,430			1,945,221	5,700,000			
			繰越					0				
			予算額									
			決算額	659,365	970,070			1,629,435				
			繰越					0				
			予算額					0				
	決算額					0						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	今後想定される大規模地震発生時においても、必要な下水道機能の確保に努め、市民生活への影響を最小限にするための取組が求められています。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	水処理センター・ポンプ場の地震対策を着実に進め、活動指標である「ポンプ場の汚水揚水機能確保率」などの目標値を達成し、大規模地震発生においても必要な下水道機能の確保に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	水処理センター・ポンプ場の地震対策について、被災時に必要となる下水道機能に重点化を図り、被災時においても市民生活への影響を最小限に抑える対策を進めるため、今後も継続して事業を推進していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔危機管理〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成										
	10年間の方向性	災害時の機能維持										
	施 策 11	下水道の危機管理対策										
	取 組 33	災害対応能力の強化										
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		大規模地震や風水害などに対する災害対応能力の強化を進めることにより、発災時の下水道サービス低下による市民生活への影響を最小限に抑えます。										
取組の概要		大規模地震や激甚化・頻発化する風水害などを踏まえ、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善を継続的に行い、上下水道局防災計画及び業務継続計画の検証・見直しによる実効性の向上、災害対応能力の強化を進めます。										
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・PDCAサイクルによる上下水道局防災計画及び業務継続計画の検証・見直し ・職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施 ・排水ポンプ車運用訓練の実施 ・災害用通信体制の構築										
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所										
		変更理由										

計画（Plan）

今年度の取組内容	①職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施 ②ビデオ会議システム及び内線電話システムの構築
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)			①職員を対象とした訓練・研修の継続的な実施については、情報連絡訓練や相互応援訓練等を6回実施し、実施後のアンケート調査結果による理解度向上率も目標を達成しました。また、排水ポンプ車運用については、職員と協力業者の連携を強化させるために訓練を24回実施し、これらの取組により災害対応力の強化を図ることができました。 ②ビデオ会議システムについては、本庁舎、長沢浄水場、等々力水処理センターの3拠点における令和6年7月からの運用開始に向けシステム納入業者とシステム構成を決定しました。									
			指標分類	指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値
1	活動 指標	局訓練・研修後のアンケート調査結果による理解度 説明 理解度向上者数／アンケート回答者×100(%) (年平均)	計画目標値	-	80	80	80	80	80			%
			実績	-	95	98						
2	活動 指標	排水ポンプ車運用訓練実施回数 説明	計画目標値	-	15	15	15	15	15			回
			実績	18	20	24						
3		説明	計画目標値									
			実績									
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		下水	予算額	取組37「水処理センター・ポンプ場の設備更新・長寿命化」に含まれる。								
			繰越									
			予算額									
			決算額									
			予算額					0				
			繰越					0				
予算額						0						
	決算額					0						
評価（Check）												
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分			実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)								
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った 3			災害時の対応については、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善を継続的にを行い、実効性の向上、災害対応能力の強化を進めることが求められます。								
施策への 貢献度	貢献度区分			施策の貢献度区分を選んだ理由								
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い A			局防災計画等の改訂を進め、より実効性を高めていることや、各種災害対策訓練の実施により防災対応能力の向上が図れたことから、施策に貢献しています。								
改善（Action）												
今後の取組の 方向性	方向性区分			実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性								
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了 II			防災計画と業務継続計画については、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善等の取組により実効性を高めていきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔危機管理〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成							
	10年間の方向性	災害時の機能維持							
	施 策 11	下水道の危機管理対策							
	取 組 34	災害時の連携強化と災害リスク情報の発信の推進							
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		大規模地震や風水害などに対する災害対応能力の強化を進めることにより、発災時の下水道サービス低下による市民生活への影響を最小限に抑えます。							
取組の概要		大規模地震や激甚化・頻発化する風水害などを踏まえ、広域的な応援体制の構築につながる大都市等との訓練の継続的な実施により、災害時の連携強化を進めます。また、災害時の被害の最小化や災害リスク情報を発信するための取組について、関係機関とも連携しながら推進します。							
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・他都市と連携した訓練の継続的な実施 ・大都市間等との広域連携による応援体制の強化 ・民間事業者等との協力体制の充実 ・内水ハザードマップ及び浸水実績図の周知 ・水位周知下水道における水位情報の周知(堀川幹線) ・観測機器から得られる排水樋管情報の提供 ・災害時のトイレ対策のあり方についての全庁的な検討に基づく取組の推進							
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所								
	変更理由								

計画(Plan)

今年度の取組内容	①他都市との訓練 ②災害リスク情報の発信
----------	-------------------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①他都市と連携した訓練については、下水道大都市ルール等による訓練を5回実施し、災害時の連携強化を図ることがで きました。 ②災害リスク情報の発信については、内水ハザードマップや災害時のトイレ問題について、広報誌「かわさきの上下水道」 による周知とともに、各自主防災組織連絡協議会や市及び各区総合防災訓練、市防災イベント「備えるフェスタ」などで積 極的に周知を行いました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
1		説明		計画目標値	－								
				実績									
2		説明		計画目標値	－								
				実績									
3		説明		計画目標値									
				実績									
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
決算額						0							

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		3	実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
施策への 貢献度	貢献度区分		A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			
				各種災害対策訓練の実施により防災対応能力の向上や災害時の連携が図れたことや、災害リスク情報の発信により応急対策の推進が図れたことから、施策に貢献しています。

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		II	災害時の連携を強化していくためには、大都市間の情報共有や訓練が重要であるため、PDCAサイクルによる訓練の実施、振り返り、改善等の取組を継続していきます。また、災害リスク情報の発信についても、市民に分かりやすい情報を、多くの方に伝わるよう改善を重ねながら継続していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

下水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成 	
	10年間の方向性	下水道管きよ・施設の適切な管理と更新【持続】	
	施策 12	下水道の管きよ・施設の老朽化対策	
	取組 35	下水管きよの再整備	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		老朽化施設に対し、アセットマネジメントの取組による適切なリスク評価をすることで、計画的な老朽化対策を進め、安定した下水道サービスを将来にわたり継続的に提供します。	
取組の概要		施設の劣化状況を適切に把握し、中長期的な視点を踏まえ、リスクとコストのバランスを考慮しながら最適な管きよの再整備を行い、老朽化対策を進めるとともに、再整備と合わせて耐震化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・管きよ再整備重点地域における老朽化した管きよの再整備 (入江崎処理区、加瀬処理区の一部) ・汚泥圧送管の再整備 (等々力水処理センター～戸手ポンプ場)	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計 画 (Plan)

今年度の取組内容	①老朽化した下水管きよの再整備の推進
-----------------	--------------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①老朽化した下水管きよの再整備の推進については、管きよ再整備重点地域として位置付けた入江崎処理区及び加瀬処 理区の一部において約4.6km実施するとともに、汚泥圧送管の老朽化対策を約0.7km実施しました。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	活動 指標	管きよ再整備率		計画目標値	－	36.9	37.7	39.0	39.8	39.8		%
		説明	再整備実施延長/再整備対策延長×100 (%) ※再整備対策延長：入江崎処理区及び加瀬処 理区の一部	実績	36.4	36.9	37.7	－	－			
				汚泥圧送管の再整備率		計画目標値	－	12.5	12.5			
2	活動 指標	説明	再整備完了箇所数/再整備対象箇所数 ×100(%)	実績	12.5	12.5	12.5	－	－			
				計画目標値								
		3		説明		実績						
事業						予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
予算 決算 (単位： 千円)	下水	予算額	1,658,535	1,938,393			3,596,928	4,600,000				
		繰越					0					
		予算額										
		決算額	1,544,398	847,544			2,391,942					
		予算額					0					
		繰越					0					
		予算額					0					

評価（Check）

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）									
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	下水道は高度成長期に急速に整備を進めてきたことから、今後、耐用年数を迎える施設が増えることが見込まれているため、アセットマネジメントの推進などによる、安定的な下水道サービスの提供に向けた取組が必要となっています。									
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由									
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	下水管きよの再整備を着実に進め、活動指標である「管きよ再整備率」の目標値を達成し、安定的な下水道サービスの提供に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。									

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	下水管きよの再整備については、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。									

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成 
	10年間の方向性	下水道管きよ・施設の適切な管理と更新【持続】
	施策 12	下水道の管きよ・施設の老朽化対策
	取組 36	水処理センター・ポンプ場の再構築
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		老朽化施設に対しアセットマネジメントの取組による適切なリスク評価をすることで、計画的な老朽化対策を進め、安定した下水道サービスを将来にわたり継続的に提供します。
取組の概要		施設の劣化状況を適切に把握し、中長期的な視点を踏まえ、リスクとコストのバランスを考慮しながら最適な施設の再構築を行い、老朽化対策を進めるとともに、再構築と合わせて耐震化・省エネ化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築 (R8完成) ・渡田ポンプ場の再構築 (R9完成) ・大師河原ポンプ場の再構築 ・六郷ポンプ場の再構築
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	①水処理センター・ポンプ場の設備更新や再構築の推進

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①水処理センター・ポンプ場の設備更新や再構築の推進については、入江崎総合スラッジセンター、渡田ポンプ場、大師 河原ポンプ場において施設の再構築を推進しました。									
				指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
1		説明		計画目標値									
				実績									
2		説明		計画目標値									
				実績									
3		説明		計画目標値									
				実績									
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
		下水	予算額	350,000	900,000			1,250,000	13,100,000				
			繰越					0					
			予算額										
			決算額	265,921	3,536,393			3,802,314					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
決算額						0							

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	下水道は高度成長期に急速に整備を進めてきたことから、今後、耐用年数を迎える施設が急増することが見込まれているため、アセットマネジメントの推進などによる、安定的な下水道サービスの提供に向けた取組が必要となっています。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	入江崎総合スラッジセンター、渡田ポンプ場、大師河原ポンプ場において、設備更新や再構築を推進したことにより、安定的な下水道サービスの提供に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I	水処理センター・ポンプ場の再構築については、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成 	
	10年間の方向性	下水道管きよ・施設の適切な管理と更新【持続】	
	施策 12	下水道の管きよ・施設の老朽化対策	
	取組 37	水処理センター・ポンプ場の設備更新・長寿命化	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		老朽化施設に対しアセットマネジメントの取組による適切なリスク評価をすることで、計画的な老朽化対策を進め、安定した下水道サービスを将来にわたり継続的に提供します。	
取組の概要		施設の劣化状況を適切に把握し、中長期的な視点を踏まえ、リスクとコストのバランスを考慮しながら最適な施設の設備更新・長寿命化を行い、老朽化対策を進めるとともに、設備更新・長寿命化と合わせて耐震化・省エネ化等の機能向上を図るなど、効率的・効果的に事業を推進します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・ライフサイクルコストを最小化した設備更新・長寿命化の継続 ・光ファイバーケーブル網の更新	
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所		
	変更理由		

計画（Plan）

今年度の取組内容	①ライフサイクルコストを最小化した設備更新・長寿命化の継続 ②光ファイバーケーブル網の更新
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①ライフサイクルコストを最小化した設備更新・長寿命化の継続については、江川ポンプ場等の設備更新を推進しました。 ②光ファイバーケーブル網の更新については、入江崎水処理センターから江川ポンプ場間の更新工事を推進しました。								
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1		説明		計画目標値								
				実績								
2		説明		計画目標値								
				実績								
3		説明		計画目標値								
				実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		下水	予算額	3,964,049	4,690,403			8,654,452	10,800,000			
			繰越					0				
			予算額									
			決算額	3,145,331	2,819,057			5,964,388				
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
決算額						0						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		3	実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載） 下水道は高度成長期に急速に整備を進めてきたことから、今後、耐用年数を迎える施設が急増することが見込まれているため、アセットマネジメントの推進などによる、安定的な下水道サービスの提供に向けた取組が必要となっています。
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
施策への 貢献度	貢献度区分		A	施策の貢献度区分を選んだ理由 江川ポンプ場等において、ライフサイクルコストを最小化した設備更新・長寿命化の推進するとともに、入江崎水処理センターから江川ポンプ場間における光ファイバーケーブル網の更新を推進したことにより、安定的な下水道サービスの提供に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I	水処理センター・ポンプ場の設備更新・長寿命化については、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要		
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成 
	10年間の方向性	下水道管きよ・施設の適切な管理と更新【持続】
	施策 13	下水道の管きよ・施設の維持管理
	取組 38	下水管きよの維持管理
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		下水管きよの維持管理については、管きよを健全な状態に保つため、計画的な点検・調査、修繕等による予防保全を組み合わせた維持管理を実施し、安定した下水道サービスを提供します。
取組の概要		下水管きよの維持管理は、管きよを健全な状態に保つため、計画的な点検・調査、修繕等による予防保全を組み合わせた維持管理を実施します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・下水管きよの計画的な清掃、点検・調査、修繕等の実施 ・アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	
	変更理由	

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	①下水管きよの計画的な清掃、点検・調査、修繕等の実施 ②アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）		①下水管きよの計画的な清掃、点検・調査、修繕等を実施しました。 ②アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析を行い、下水管きよの健全度予測やリスク評価を実施しました。									
指標分類	指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明		計画目標値								
			実績								
2	説明		計画目標値								
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								
予算 決算 （単位： 千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
	下水	予算額	1,423,612	1,442,649			2,866,261	6,200,000			
		繰越					0				
		予算額 決算額	1,118,789	1,257,770			2,376,559				
		予算額					0				
		繰越					0				
		予算額 決算額					0				

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	今後老朽化した管きよ・施設が更に急増することが見込まれており、適切な修繕整備や施設管理が求められていることから、今後も継続的に推進していく必要があります。								
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由								
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	下水管きよの計画的な清掃、点検・調査及び修繕並びにアセットマネジメント情報システムを利用した維持管理情報の蓄積と管理を行いました。それら活動実績と維持管理情報から施設管理状況の把握・評価を行うとともに今後の維持管理計画等に反映することで効率的かつ効果的に維持管理を行うことができました。								

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性								
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	下水管きよの維持管理は、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成										
	10年間の方向性	下水道管きよ・施設の適切な管理と更新【持続】										
	施 策 13	下水道の管きよ・施設の維持管理										
	取 組 39	水処理センター・ポンプ場施設の維持管理										
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		水処理センター・ポンプ場の維持管理については、水処理センター・ポンプ場施設を健全な状態に保つため、計画的な点検・調査、修繕等による予防保全を組み合わせた維持管理を実施し、安定した下水道サービスを提供します。										
取組の概要		水処理センター・ポンプ場施設を健全な状態に保つため、計画的な点検・調査、修繕等による予防保全を組み合わせた維持管理を実施します。また、放流水質基準の遵守、エネルギーの適切な管理など、これまで蓄積した知識と経験等に基づき水処理センター・ポンプ場を適正に運転管理します。										
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・水処理センター・ポンプ場の計画的な保守点検・調査、修繕等の実施 ・水処理センター・ポンプ場の適切な運転管理の実施 ・アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析										
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所										
		変更理由										

計画（Plan）

今年度の取組内容	①水処理センター・ポンプ場の計画的な保守点検・調査、修繕等の実施 ②水処理センター・ポンプ場の適切な運転管理の実施 ③アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析の実施
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

- ①水処理センター・ポンプ場の計画的な清掃、点検・調査、修繕等を実施しました。
 ②水処理センター・ポンプ場の適切な運転管理を実施しました。
 ③アセットマネジメント情報システムによる維持管理情報の蓄積・管理・分析を行い、施設の健全度予測やリスク評価を実施しました。
 老朽化した施設の修繕及び更新が、近年の物価上昇ならびに材料等における遅延の影響で計画通り進まないなか、突発的な故障時においても水処理センターの水質確保に尽力を尽くしています。

指標分類		指標名				目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位		
		説明														
1						計画目標値										
		説明				実績										
2						計画目標値										
		説明				実績										
3						計画目標値										
		説明				実績										
予算 決算 (単位： 千円)	事業		予算・決算		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		合計		計画事業費 (4年間)	
	下水		予算額		3,040,368		3,053,839						6,094,207		12,000,000	
			繰越								0					
			予算額													
			決算額		2,605,080		2,851,468						5,456,548			
			予算額										0			
			繰越										0			
	予算額										0					
			決算額										0			

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	今後老朽化した管きょ・施設が更に急増することが見込まれており、適切な修繕整備や施設管理が求められていることから、今後も継続的に推進していく必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	水処理センター・ポンプ場の計画的な清掃、点検・調査、修繕等の実施や、アセットマネジメント情報システムを活用し、施設の点検・調査・修繕等の保全情報や、流入水質・放流水質等の運転情報といった維持管理に関する情報をアセットマネジメント情報システムに蓄積するとともに、それらの情報を分析することにより、保守点検計画や老朽化対策事業の最適化を図ったことで、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	水処理センター・ポンプ場は、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

下水道計画課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成												
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】												
	施 策 14	下水道の高度処理												
	取 組 40	水処理センターの高度処理化												
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		水処理センターの高度処理化を推進することで、東京湾の水質環境基準を、流域内の都市と連携して達成・維持し、快適な水環境を確保します。												
取組の概要		東京湾流域別下水道整備総合計画で定められた目標水質の達成に向け、今後も富栄養化の原因物質とされる窒素やリンの除去などを目的とした取組を進めます。												
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・等々力水処理センターにおける流量調整池の整備・既設反応タンクの改造・脱窒ろ過池の整備 ・入江崎水処理センター東系施設への段階的・高度処理の導入												
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所												
		変更理由												

計画（Plan）

今年度の取組内容	①水処理センターの施設整備による更なる高度処理化の推進 ②既存施設の一部改造や運転管理の工夫による段階的な高度処理の導入に向けた取組の推進
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

①水処理センターの施設整備による更なる高度処理化の推進については、等々力水処理センターにおいて、更なる高度処理化に向けた脱窒ろ過池などの工事を進めているところですが、大規模かつ複雑な構造なことから、仮設計画に変更が生じたため、工事に遅れが発生している。
②既存施設の一部改造や運転管理の工夫による段階的の高度処理の導入に向けた取組の推進については、入江崎水処理センター（東系）において、既存施設を活用した運転管理の工夫による段階的の高度処理の導入に向けた調査研究を推進しました。

指標分類		指標名			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明											
1	活動 指標	高度処理普及率			計画目標値	－	59.3	59.3	100	－	100		%
		説明	全高度処理能力／全計画処理能力×100(%) ※高度処理として取り扱うことのできる処理方法等を含む。		実績	59.3	59.3	59.3	－	－			
2					計画目標値								
		説明			実績								
3					計画目標値								
		説明			実績								
予算 決算 (単位：千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
		下水	予算額	4,975,000	3,366,942			8,341,942	12,500,000				
			繰越					0					
			予算額										
		決算額	6,539,973	4,294,953			10,834,926						
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
決算額						0							

評価（Check）

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	4	本市の下水処理水が最終的に流れ込む東京湾では、下水処理水などに含まれる窒素やりんを原因として富栄養化が進み、赤潮などの被害が依然として発生しているなど、更なる水質改善が必要な状況となっていることから、本市下水道事業計画の上位計画となる、東京湾流域別下水道整備総合計画に基づいた、水処理センターの高度処理化が求められています。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	等々力水処理センターにおいて、更なる高度処理化に向けた脱窒ろ過池などの工事を推進するとともに、入江崎水処理センター（東系）において、段階的の高度処理の導入に向けた調査研究を推進したことにより、東京湾流域別下水道整備総合計画に基づいた水処理センターの高度処理化に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	水処理センターの高度処理化については、は東京湾の水質環境基準を達成・維持し、快適な水環境を確保するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。 また、等々力水処理センターの更なる高度処理化の推進について、工事に遅れが発生していますが、工事の完成に向けて、工程管理の徹底に努めてまいります。また、当該事業の遅れによる関連事業への影響が無いよう、関係機関との協議調整を進めていきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成							
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】							
	施 策 15	合流式下水道の改善							
	取 組 41	合流式下水道の改善							
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		汚濁負荷の高い初期雨水の貯留や遮集管の能力増強などにより、合流式下水道からの雨天時越流水による、公共用水域の水質汚濁の防止を図り、公衆衛生上の安全などを確保します。							
取組の概要		合流式下水道の改善を確実に進めていくため、令和5(2023)年度末までに達成すべき技術上の基準が下水道法施行令で定められてることから、この技術上の基準を満たすよう、本市が定めた当面の改善目標の達成に向けた取組を進めます。							
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・大師河原貯留管を合流改善対策施設として活用するための大師河原ポンプ場の改築 ・六郷遮集幹線の整備							
当初の計画からの変更 箇所とその理由 (取組の 概要、計画期間の取組内容や 計画目標値を変更して進捗管 理している場合に記入)	変更箇所	・大師河原貯留管を合流改善対策施設として活用するための大師河原ポンプ場の改築(令和6年度未完了) 【令和5年度変更】							
	変更理由								

計画 (Plan)

今年度の取組内容	①合流式下水道の改善の推進
----------	---------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)			①合流式下水道の改善の推進については、大師河原ポンプ場の汚水沈砂池の改築は完了しました。六郷遮集幹線の整備については、想定外の地中埋設物の調査および撤去作業等に時間を要した結果、令和5年度の完成が達成できなかったため、目標を下回りました。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	活動 指標	合流式下水道改善率		計画目標値	－	73.5	100	－	－	100		％
		説明	合流式下水道改善対策完了区域面積／ 合流式下水道区域面積×100(％)	実績	73.5	73.5	73.5	－	－			
2				計画目標値								
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		下水	予算額	2,995,988	2,405,939			5,401,927	7,600,000			
			繰越					0				
			予算額									
			決算額	2,072,170	3,033,600			5,105,770				
			予算額					0				
			繰越					0				
	予算額					0						
	決算額					0						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）									
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		4 合流式下水道から雨天時に川や海へ放流される下水による水質汚濁の防止や公衆衛生上の安全を確保するため、着実な事業推進が求められます。 下水道法施行令に令和5年度までに達成すべき技術上の基準（汚濁負荷量の削減、雑物の削減）が定められており、これまでの取り組み等により基準を達成していますが、快適な水辺環境の創出のため、国が求める合流式下水道緊急改善事業の改善目標（公衆衛生上の安全確保）の達成に向けて、今後も継続的に推進していく必要があります。									
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由									
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		B 活動指標である「合流式下水道改善率」は目標値を下回りましたが、大師河原ポンプ場の汚水沈砂池の改築が完了したことにより、水質汚濁の防止や公衆衛生上の安全の確保に向けた取組を進めたことから、施策への貢献がやや図られました。									

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I 合流式下水道の改善については、公共用水域の水質汚濁の防止や公衆衛生上の安全を確保するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。 また、活動指標である「合流式下水道改善率」は目標を下回りましたが、今後、六郷遮集幹線の整備の早期の達成に向け、関係機関との協議調整を円滑に図りながら整備を進めていきます。									

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成										
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】										
	施 策 16	下水道の未普及地域の解消										
	取 組 42	下水道の未普及地域の解消										
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		下水道の未普及地域を解消し、全ての市民が下水道を利用できるようにします。										
取組の概要		下水道の未普及地域の解消は、下水道処理人口普及率100％達成を目指し、主な下水道の未整備地区である土地区画整理事業区域内や河川沿いの区域における下水道整備の推進など、未普及地域の解消に向けた取組を進めます。										
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・登戸土地区画整理地区や河川沿いなどの未普及地域の解消に向けた下水道の整備の推進										
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所										
		変更理由										

計 画 (Plan)

今年度の取組内容	①未普及地域解消に向けた下水道の整備の推進
----------	-----------------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

①未普及地域解消に向けた下水道の整備の推進については、登戸地区で下水管さよの整備を推進しました。

指標分類		指標名				目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明												
1	活動 指標	下水道処理人口普及率				計画目標値	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5		%
		説明	下水道が整備された区域に居住する人口／各年度末における行政区人口×100(%)			実績	99.5	99.5	99.5	-	-			
2						計画目標値								
		説明				実績								
3						計画目標値								
		説明				実績								
予算 決算 (単位：千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)					
		下水	予算額	69,260	105,862			175,122	200,000					
			繰越					0						
			予算額											
			決算額	362,782	545,723			908,505						
			予算額					0						
			繰越					0						
			予算額					0						
決算額					0									

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	下水道整備による公衆衛生の向上や河川・海域等の水質保全のため、今後も継続的に推進していく必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	下水道の未普及地域の解消を着実に進め、活動指標である「下水道処理人口普及率」の目標値を達成し、公衆衛生の向上や河川・海域等の水質保全に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	下水道の未普及地域の解消については、安定的に質の高い下水道サービスを継続的に提供するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

下水道水質課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成 	
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】	
	施策 17	下水道の事業場指導・水質管理	
	取組 43	事業場排水の指導	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		事業場排水の指導を実施することで、水質基準を超過する排水を未然に防止し、水処理センターからの良好な放流水質を確保します。	
取組の概要		有害物質等を取り扱うなど下水道への排水を監視する必要がある事業場に対して立入調査を行い、排水指導を継続して実施します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・下水道への排水について監視する必要がある事業場への立入調査の継続実施	
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所		
	変更理由		

計画（Plan）

今年度の取組内容	①有害物質等を取り扱うなど監視を必要とする事業場に対する、年間を通じた事前通告なしの立入調査の実施 ②事業場排水の採水、水質検査・監視とともに、有害物質等の取扱状況や施設の維持管理状況の確認による指導の実施
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			①有害物質等を取り扱うなど監視を必要とする事業場に対して、年間を通じて事前通告なしに立入調査を実施しました。 ②事業場排水を採水し、水質検査・監視を行うとともに、有害物質等の取扱状況や施設の維持管理状況を確認し、指導を行いました。 ①②により水質基準を超過する排水の未然防止を図り、水処理センターからの良好な放流水質を確保することができました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明			計画目標値	—							
				実績								
2	説明			計画目標値	—							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位：千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
		下水	予算額	—	—			0				
			繰越					0				
			予算額					0				
			決算額	—	—			0				
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
決算額						0						

評価（Check）			
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	水質基準の項目や基準値の見直し等の検討が重ねられている中で、事業場排水の指導に関する取組が、引き続き求められています。
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	事業場排水の適切な指導により、水質基準違反の未然防止を図ることができ、施策に貢献しています。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	公共用水域の水質保全に向け継続した取組が必要なことから、下水道への排水について監視する必要のある事業場への立入調査を継続して実施していきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

下水道水質課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成 	
	10年間の方向性	快適で暮らしやすい水環境の創造【環境】	
	施策 17	下水道の事業場指導・水質管理	
	取組 44	良好な放流水質の確保	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		水処理センターで適正な水質管理を実施することで、良好な放流水質を確保し、きれいな水を継続して川や海に返します。	
取組の概要		流入下水の変動に対応した水処理状況を把握するために、処理過程の段階ごとに必要な水質検査を定期的に行い、適正な水質管理を継続します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・水処理センターでの処理過程ごとの定期的な水質検査による適正な水質管理の継続実施	
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所	
		変更理由	

計画（Plan）

今年度の取組内容	①水処理センターでの処理過程ごとの定期的な水質検査の実施
----------	------------------------------

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①水処理センターでの処理過程ごとの定期的な水質検査を実施しました。 これにより、流入下水の変動に対応した適正な水質管理を行い、水処理センターからの良好な放流水質を確保することが できました。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	成果 指標	放流水の水質基準適合率		計画目標値	－	100	100	100	100	100		%
		説明	放流水試験の結果、法に定める水質基準に適合した回数／放流水試験を実施した回数×100(%)	実績	100	100	100					
2				計画目標値	－							
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 (単位： 千円)	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
		下水	予算額	—	—			0				
			繰越					0				
			予算額					0				
		決算額	—	—			0					
			予算額						0			
			繰越						0			
			予算額						0			
	決算額					0						

評価（Check）

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	水質基準の項目や基準値の見直し等の検討が重ねられている中で、良好な放流水質の確保に関する取組が、引き続き求められています。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	適正な水質管理の実施により、水処理センターの放流水質を良好に確保することができ、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	公共用水域の水質保全に向け継続した取組が必要なことから、水処理センターでの処理過程ごとの定期的な水質検査による適正な水質管理を継続して実施していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

		所管課	下水道計画課
取組の概要			
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成 	
	10年間の方向性	地球環境への配慮【環境】	
	施策 18	下水道の地球温暖化対策	
	取組 45	地球温暖化対策	
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にしたいか）		下水道事業による2050年の温室効果ガス排出量の実質ゼロ達成を目指します。	
取組の概要		汚泥焼却施設の再構築に合わせた温室効果ガス排出量の削減、再生可能エネルギーの活用、高効率機器の導入及び最適な運転管理などにより省エネルギー化に向けた取組を進めることで、温室効果ガスの排出量を削減します。	
計画期間の取組内容（R4～R7）		・設備の更新に合わせた高効率機器・省エネルギー機器の導入 ・再生可能エネルギーの活用に向けた取組の推進 ・最適な運転管理などによる省エネルギー化の取組の推進 ・入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築に合わせた温室効果ガス削減の取組の推進 ・地球温暖化対策に資する下水道技術開発の取組の推進	
当初の計画からの変更箇所とその理由 （取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所	
		変更理由	
計 画（Plan）			
今年度の取組内容		①入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築 ②省エネ・創エネ機器の導入等による温室効果ガス排出削減に向けた取組の推進	

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)			①入江崎総合スラッジセンターにおいて1系統却炉の再構築については、入江崎総合スラッジセンターにおいて施設の再構築を推進しました。 ②省エネ・創エネ機器の導入等による温室効果ガス排出削減に向けた取組の推進については、加瀬水処理センターにおいて、再構築に併せた省エネ機器の導入を実施しました。一方、川崎市環境配慮電力入札実施要綱に基づく電力購入の結果、電力会社における温室効果ガスの基礎排出係数が高い状況であり、温室効果ガス排出量が多くなったため、目標を下回りました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	活動 指標	温室効果ガス排出量の削減割合(2013年度比)		計画目標値	－	22.7	24.2	25.9	27.7	27.7		%
		説明	2013年度の温室効果ガス排出量に対する削減割合 ※目標値を算定する上で使用する電力排出係数は、川崎市地球温暖化対策推進基本計画において市役所の温室効果ガス排出目標量を算定する際に使用した値を用いる。	実績	15.9	22.7	21.6	－	－			
2				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		下水	予算額	取組36「水処理センター・ポンプ場の再構築」 取組37「水処理センター・ポンプ場の設備更新・長寿命化」に含まれる								
			繰越									
			予算額									
			決算額									
			予算額					0				
			繰越					0				
予算額						0						
決算額						0						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	4	脱炭素社会の実現に貢献するため、温室効果ガス排出量の削減に向けて着実な推進が必要となることから、今後も継続的に推進していく必要があります。								
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由								
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	活動指標である「温室効果ガス排出量の削減割合(2013年度比)」は、目標を下回りましたが、入江崎総合スラッジセンター1系統却炉の再構築の推進や、加瀬水処理センターにおける省エネ機器の導入したことにより、脱炭素社会の実現に貢献するための温室効果ガス排出量の削減に向けた取組を進めたことから、施策への貢献がやや図られました。								

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性								
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	地球温暖化対策については、脱炭素社会の実現に貢献するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。 また、活動指標である「温室効果ガス排出量の削減割合(2013年度比)」は、目標を下回りましたが、今後、省エネ機器の導入や創エネなど温室効果ガス削減に向けた取組を進めていきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成							
	10年間の方向性	地球環境への配慮【環境】							
	施 策 19	下水道の資源・施設の有効利用							
	取 組 46	資源・施設の有効利用							
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		循環型社会の構築や快適な地域環境の創造に向けて、下水道の持つ資源と施設の有効利用を推進します。							
取組の概要		下水道の持つ資源（下水・処理水・汚泥・熱）や、施設（水処理センターの上部空間）の有効利用を推進します。							
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・高度処理水の利用の継続（江川せせらぎ水路、洗車用水など） ・下水汚泥（焼却灰）の有効利用の継続 ・汚泥焼却熱の有効利用の継続（入江崎余熱利用プール） ・下水道施設の空間利用の継続（加瀬水処理センターなど）							
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所								
	変更理由								

計画(Plan)

今年度の取組内容	①高度処理水の利用の継続(江川せせらぎ水路、洗車用水など) ②下水汚泥(焼却灰)の有効利用の継続 ③汚泥焼却熱の有効利用の継続(入江崎余熱利用プール) ④下水道施設の空間利用の継続(加瀬水処理センターなど)
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①高度処理水の利用の継続については、江川せせらぎ水路や近隣企業者へ提供など、高度処理水の利用を継続しまし た。 ②下水汚泥(焼却灰)の有効利用の継続については、焼却灰のセメント原料化を推進し、下水汚泥(焼却灰)の有効利用を 継続しました。 ③汚泥焼却熱の有効利用の継続については、入江崎余熱利用プールなどで汚泥焼却熱の有効利用を継続しました。 ④下水道施設の空間利用の継続については、加瀬水処理センターなどの上部空間の市民開放を継続するとともに、入江 崎水処理センター上部施設等の整備に向け、塩浜3丁目土地利用計画や川崎市地球温暖化対策推進基本計画などの 整合を図り、関係局と連携し有効活用の具体化に向けた検討を行いました。										
				指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値
1		説明		計画目標値										
				実績										
2		説明		計画目標値										
				実績										
3		説明		計画目標値										
				実績										
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)					
		下水	予算額	—	—			0	—					
			繰越					0						
			予算額					0						
			決算額	—	—			0						
			予算額					0						
			繰越					0						
予算額						0								
		決算額					0							

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	循環型社会の構築と快適な地域環境の創造に貢献するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続的に推進していく必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	処理水や汚泥焼却熱の有効利用を継続するとともに、下水道施設の空間利用について、関係局と連携し有効活用の具体化に向けた検討を進めたことにより、循環型社会の構築と快適な地域環境の創造に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I	資源・施設の有効利用については、循環型社会の構築と快適な地域環境の創造に貢献するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続して効果的かつ効率的に事業を推進していきます。								

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	下水道計画課
-----	--------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅱ	下水道による良好な循環機能の形成												
	10年間の方向性	地球環境への配慮【環境】												
	施 策 19	下水道の資源・施設の有効利用												
	取 組 47	再生資源利用の推進												
取組の対象 （事業の対象となる人、物） 取組の目的 （対象をどのような状態にした いか）		下水道工事で発生する建設副産物のリサイクルを進め、循環型社会の構築と快適な地域環境の創造に貢献します。												
取組の概要		下水道工事で発生する建設副産物のリサイクルを推進するとともに、再生資源材料を工事に積極的に採用します。												
計画期間の取組内容 （R4～R7）		・再生資源材料の工事への積極的な採用 ・工事で発生した建設副産物のリサイクルの推進												
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所												
		変更理由												

計画（Plan）

今年度の取組内容	①再生資源材料の工事への積極的な採用 ②工事で発生した建設副産物のリサイクルの推進
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①再生資源材料を工事へ積極的に採用しました。 ②工事で発生した建設副産物を積極的にリサイクルしました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
1		説明		計画目標値									
				実績									
2		説明		計画目標値									
				実績									
3		説明		計画目標値									
				実績									
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
		下水	予算額	—	—			0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
決算額						0							

評価（Check）

今年度の取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	循環型社会の構築に貢献するため、着実な推進が必要となることから、今後も継続的に推進していく必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	再生資源材料の採用や建設副産物のリサイクルを進め、循環型社会の構築と快適な地域環境の創造に向けた取組を進めたことから、施策への貢献が図られました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I	下水道工事で発生するアスファルトコンクリート等は可能な限り再資源化し、再生資源材料として工事資材に積極的に活用するなど循環型社会の構築に向けた環境施策を継続的に実施していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

サービス推進課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】		
	施 策 20	お客さまとの信頼関係の構築		
	取 組 48	川崎の上下水道の魅力の情報発信		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		市民等に対し上下水道に関する様々な情報の発信を行うとともに、お客さまとの対話の機会を通じて上下水道へのニーズを的確に把握し、施策へ反映します。また、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握を行います。		
取組の概要		公営企業として、水道利用者であるお客さまには、相互の信頼関係の下で適切なサービスを提供し、納得した上でその対価を負担していただくために、様々な広報・広聴活動を行う必要があります。また、工業用水道事業では、工業用水道利用者と相互の信頼関係を築くため、工業用水道利用者協議会等を通じて、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握を継続的に行います。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・広報戦略の策定(令和4年度)及び更新(令和7年度) ・広報実施計画の策定 ・広報紙「かわさきの上下水道」、上下水道局ウェブサイト、上下水道局Twitter等による情報発信 ・夏休み水道・下水道教室、山北町交流事業、かわさき水まつり(みずみずフェア)、上下水道局作品コンクール等のイベントの実施 ・長沢広報施設「水とかがやく未来館」における見学案内の実施 ・入江崎広報施設「ワクワクアクア」における見学案内の実施 ・広報ウェブアンケート等による広聴の実施 ・工業用水利用者協議会幹事会・施設見学会への参加 ・定期的な予定使用水量の調査		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	① 広報実施計画の策定 ② 広報紙「かわさきの上下水道」、上下水道局ウェブサイト、上下水道局Twitter等による情報の発信 ③ 夏休み水道・下水道教室、山北町交流事業、かわさき水まつり(みずみずフェア)、上下水道局作品コンクール等のイベントの実施 ④ 長沢広報施設「水とかがやく未来館」における見学案内の実施 ⑤ 入江崎広報施設「ワクワクアクア」における見学案内の実施 ⑥ 広報ウェブアンケートの実施 ⑦ 工業用水利用者協議会幹事会等での情報提供や意見交換 ⑧ 予定使用水量の調査
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)			①「川崎市上下水道事業 広報戦略」に基づき、広報実施計画を策定しました。 ②広報紙「かわさきの上下水道」については、取材型特集により紙面構成の改良を図り、併せて内部広報の充実にも寄与しながら、年4回発行しました。上下水道局ウェブサイトは適宜更新及び改良、上下水道局Xは発信内容の見直しや発信回数を増加し、魅力的な情報発信を行いました。 ③夏休み水道教室、山北町交流事業、みずみずフェア、上下水道局作品コンクール等のイベントを実施しました。 ④コロナ禍における見学受入人数の制限を撤廃し長沢広報施設「水とかがやく未来館」における見学案内を実施しました。 ⑤コロナ禍における見学受入人数の制限を撤廃し入江崎広報施設「ワクワクアクア」における見学案内を実施しました。 ⑥広報紙8月号・12月号・3月号において、プレゼントクイズの既存の設問に広報活動に特化した設問を加え、上下水道局のメールフォームを用いて実施しました。 ⑦工業用水道利用者協議会幹事会に参加し、工業用水道事業の現状、課題、工事内容、会計報告等について、情報提供や意見交換を行いました。工業用水道利用者協議会施設見学会を生田浄水場で受け入れし、利用者に対し取水や浄水、水質等の取組を紹介し、事業に対する理解を図りました。工業用水道利用者全体説明会を2回開催し、川崎市工業用水道の将来構想等について説明を行いました。 ⑧工業用水道利用者大手10社に対して、ゴールデンウィーク、お盆休み及び年末年始の予定使用水量の調査を実施しました。									
			指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値
1	説明		計画目標値	－								
			実績									
2	説明		計画目標値	－								
			実績									
3	説明		計画目標値									
			実績									
予算 決算 (単位： 千円)	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
	水道・工水・下水	予算額	58,351	86,677			145,028	300,000				
		繰越					0					
		予算額										
		決算額	52,989	56,111			109,100					
		予算額					0					
		繰越					0					
		予算額										
決算額						0						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	令和4年度末に策定した広報戦略及び市民意識調査の結果等を踏まえ、お客さまに向け、求められている情報をさらに効果的に伝えることができる広報の検討を進め、上下水道に関する情報発信を行う必要があります。また、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握は継続的に行う必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	広報・広聴活動の充実を図ったことにより、お客さまから寄せられた広報紙に対するご意見やイベントにおけるアンケートから、一定程度、上下水道事業への理解を深めていただいたことがわかり、施策へ貢献したと判断できました。また、工業用水道利用者協議会幹事会等での情報提供や、全体説明会で施策の説明や希望水量調査を行い、工業用水道利用者のニーズを把握できたので、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II	広報紙、ウェブサイト、イベントの内容等、逐次見直しを図りながら、より魅力的な広報活動を行う必要があります。さらに、市民意識調査及びウェブアンケート等によりお客さまの声を収集し、ニーズの的確な把握に努める必要があります。また、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握は継続的に行う必要があるため、引き続き実施していきます。	

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

給水装置課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】		
	施 策 20	お客さまとの信頼関係の構築		
	取 組 49	適正な給水装置・排水設備工事の確保		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		水道 給水装置工事は、上下水道局の指定を受けた指定給水装置工事事業者による施行が必要です。 その指定給水装置工事事業者に対する講習や研修を実施することで、知識及び技術力の維持・向上を目指し、適正な工事の確保に繋がります。 下水道 排水設備工事は、神奈川県下水道協会が実施する排水設備工事責任技術者試験に合格し、川崎市で登録を受けた責任技術者が所属している、上下水道局の指定を受けた排水設備指定工事店による施行が必要です。 排水設備工事責任技術者に対し、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を毎年実施し適正な工事の確保につなげます。		
取組の概要		・新規に指定を受けた指定給水装置工事事業者には、工事を行う上での注意点や手続方法等の講習を実施します。 ・指定給水装置工事事業者が5年ごとに行う更新の際に、近年の関連法や基準の改正等を中心とした講習を実施します。 ・指定給水装置工事事業者の技術力の維持・向上等を目的として、神奈川県内の水道事業者と共同で、3年ごとに研修会を実施します。 ・排水設備工事責任技術者が5年ごとに行う更新の際に、神奈川県下水道協会と締結している協定に基づき、排水設備工事責任技術者更新講習を実施します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習を継続 ・指定給水装置工事事業者の指定期間を更新する際の講習を継続 ・指定給水装置工事事業者研修会を継続（次回は令和5年度、神奈川県内の水道事業者で共同開催予定） ・排水設備工事責任技術者更新講習を継続		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	① 指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習を実施します。 ② 指定給水装置工事事業者の指定期間を更新する際の講習を実施します。 ③ 指定給水装置工事事業者研修会を開催します。 ④ 排水設備工事責任技術者に対し、神奈川県下水道協会との協定に基づき、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を実施します。
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)			① 指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習を実施しました。 ② 指定給水装置工事事業者の指定期間を更新する際の講習を実施しました。 ③ 指定給水装置工事事業者研修会を開催しました。 上記①～③の講習・研修をオンラインで実施することで、利用者の利便性を向上するとともに、給水装置工事の施行におけ る安全性、技術力の確保に寄与することができました。 ④ 排水設備工事責任技術者に対し、関係法令等の最新動向の周知や技術レベルの確保等を目的とした更新講習を実施 したことにより、良好な排水設備工事の施行による下水道機能の確保に寄与することができました。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1		説明		計画目標値								
				実績								
2		説明		計画目標値								
				実績								
3		説明		計画目標値								
				実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
			決算額					0				
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
	決算額					0						

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）									
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	・講習・研修内容の充実及び受講者の利便性の向上、研修会の受講率向上などを目指して、改善策を検討・実施する必要があります。 ・オンライン化によって利用者の利便性を向上することは出来たものの、業務の効率化に結び付いていない部分も多いので、改善の余地があります。									
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由									
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	指定給水装置工事事業者及び排水設備工事責任技術者に対する適切な講習を実施し、適正な工事の確保に努めることで、施策に貢献しています。									

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II	・オンライン化した講習・研修について、内容の充実、受講者の利便性の向上、情報弱者に対する対策などを検討・実施していきます。 ・オンライン化で収集したデータを利活用し、業務の効率化に繋げる方策を検討・実施していきます。 ・指定給水装置工事事業者研修会について、参加率及び学習効果の更なる向上を目指して検討を進めます。 ・排水設備工事責任技術者に対する更新講習やその他の業務について、より効率的かつ効果的な対応を検討していきます。									

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

		所管課	営業課
取組の概要			
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】	
	施策 20	お客さまとの信頼関係の構築	
	取組 50	水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		お客さまが納得した上でその対価として水道料金等を負担していただくため、お客さまとの相互の信頼関係を構築し適切なサービスを提供できるよう、徴収業務等の適正な執行に取り組みます。	
取組の概要		・水道料金等の徴収等に係る業務受託者に対し、適宜指導等を行うとともに、職員の徴収業務関連知識の習得や実務能力の向上を図るため、引き続き研修会を実施します。 ・令和6年度に予定している水道料金等の徴収等に係る業務委託の更新にあたり、検針業務及び集金業務を引き続き円滑に実施できるよう委託仕様の検討や契約に向けた事務手続を計画的に進めるなど、適正に次期委託者を選定します。 ・徴収業務等を適切に執行するため、再構築後の上下水道料金等業務システムを安定的かつ効率的に運用します。 ・水道メーターの検針業務等を通じて、地域見守りネットワーク事業に引き続き協力します。 ・減量・増量認定に伴う下水道使用料の適正な徴収を行います。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・水道料金等の徴収業務受託者に対する適切な指導等の実施 ・水道料金等の徴収業務における次期委託者の選定(5年に1回) ・上下水道料金等業務システムの安定的かつ効率的な運用 ・徴収業務に関わる職員等への研修会の実施 ・地域見守りネットワーク事業への協力 ・減量・増量認定の申告に伴う現地調査及び下水道使用料の適正な徴収の実施	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所	・減量・増量認定の申告に伴う現地調査及び下水道使用料の適正な徴収の実施【令和5年度に変更】
		変更理由	組織改編による所管業務の追加
計 画 (Plan)			
今年度の取組内容		①水道料金等の徴収業務受託者の各事業所に対し、適宜指導を実施します。 ②水道料金等の徴収業務の委託契約に向けた取組を適正かつ円滑に実施します。 ③上下水道料金等業務システムの安定的な稼働のため、運用保守業務受託者と緊密に情報共有を図ります。 ④徴収業務に関わる職員等に対して関連知識の取得や実務能力の向上を図るための研修を実施します。 ⑤水道メーター検針業務等の業務受託者が生活困窮者を把握した場合の緊急通報を行うなど、福祉部局との連絡・連携体制の構築を図ります。 ⑥関係所管へ地下水利用事業者の聴取や現地調査等を実施し、下水道使用料の適正な徴収を行います。	

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			①水道料金等の徴収業務受託者の各事業所に対し、業務視察を行うなど適宜指導を実施しました。 ②水道料金等の徴収業務委託契約の更新に向けて、委託仕様の検討、調整を行うとともに、総合評価方式による契約手続などを進めました。 ③上下水道料金等業務システムの安定的な稼働のため、システムのメンテナンス作業や機能改修を行うとともに、運用保守業務受託者から定期的に運用報告を受けるなど緊密に情報共有を図りました。 ④徴収業務に関わる職員等に対して関連知識の取得や実務能力の向上を図るため、eラーニングによる研修を実施し、関連知識の習得や実務能力の向上を図りました。 ⑤水道メーター検針業務等の業務受託者が生活困窮者を把握した場合の緊急通報を行うなど、福祉部局との連絡・連携体制の構築を図りました。 ⑥下水道の一時利用や地下水利用による減量及び増量認定の申告に伴う現地調査等を適宜実施するとともに、下水道使用料の調定及び徴収業務を適正に実施しました。								
指標分類	指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明		計画目標値	-							
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								
予算 決算 （単位： 千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
	水道・下水	予算額	1,346,519	1,305,269			2,651,788	5,400,000			
		繰越	-	-	-	-	0				
		予算額	1,346,519	1,305,269			2,651,788				
		決算額									
		繰越					0				
		予算額					0				
		決算額					0				

評価（Check）

今年度の取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	一層の市民サービスの向上を図るためには、徴収業務の適正な執行の確保に努め、業務受託者と連携し業務改善点の洗い出しを行うなど、継続的に業務改善を進めるとともに、業務研修等を通してスキルアップを図り、業務の質の向上に取り組む必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	お客さまとの信頼関係を損なうことのないよう、上下水道料金等業務システムを安定的かつ効率的に運用するため、システムのメンテナンスやシステム機能の改修を行うなど、水道料金等の公平かつ適正な徴収に向けて取り組んだことで、施策への貢献を果たしました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性								
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		II	適正に水道料金等の徴収業務等を実施するために、上下水道料金等業務システムの安定稼働を確保するとともに、継続的な業務点検や課題整理を行うことで、効率的な業務運営を進めます。また、徴収業務に関する研修を効果的に実施し徴収業務に関わる職員等のスキルアップを図るなど、お客さまサービスの向上に向けて取り組みます。							

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	サービス推進課
-----	---------

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】		
	施 策 21	お客さまの利便性の向上		
	取 組 51	上下水道お客さまセンターの品質向上		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		お客さまから上下水道お客さまセンターに電話等で寄せられる、水道の使用開始や休止の受付、水道からの漏水、下水道の詰まりなど上下水道に関する一般的な問い合わせに対し、オペレーターが的確かつ迅速に対応することでお客さまの利便性が向上し、お客さまから寄せられる意見、要望等を活用することで市民サービスの向上が図られます。		
取組の概要		・お客さまからのお問合せに的確かつ迅速に対応するため、業務マニュアルの更新やFAQ(よくある質問)の充実を図るとともに、オペレーターの運営管理やオペレーターを指導するスーパーバイザー等への定期的な研修を実施することにより、応答・応対時間の短縮などお客さまセンターの品質向上を図ります。 ・上下水道お客さまセンター等に寄せられる意見、要望等、お褒めの言葉等を局内で共有化し、水道メーターの検針業務等の委託会社の業務改善、ICT(情報通信技術)活用による各種届出の効率的な受付の検討を進めるとともに、職員の意識改革、モチベーションの向上につなげます。 ・上下水道お客さまセンターの業務を管理する職員の知識を継承するための研修を継続的に実施します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・業務マニュアルの更新、FAQ(よくある質問)の充実 ・オペレーターの増員、スーパーバイザー等への定期的な研修の実施 ・お客さまから寄せられる意見、要望等の活用 ・ICT活用による各種届出の効率的な受付の実施 ・局職員の知識継承のための継続的な研修の実施 ・次期委託者の選定に向けた取組		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所		
		変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	①システム改修による業務マニュアル更新を実施します。 ②お客さまセンターにて使用している、対応FAQの登録内容を見直し、問合せに対し円滑に対応ができるよう整備します。 ③お客さまの声を各部に伝達し、改善及び検討等を実施します。 ④災害発生時のお客さまセンター受電対応の実効性を検証するための訓練を実施します。 ⑤局からお客さまセンター、スーパーバイザーへの業務研修を実施します。 ⑥上下水道お客さまセンターの知見を活用した局職員向けの受付業務研修を実施します。 ⑦システム改修等により、業務量軽減による負担低減に向けた取組を継続します。
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①業務マニュアルについて、料金システムの改修に伴う修正や各種マニュアルと整合を行い、業務マニュアルを更新しまし た。 ②FAQについて、業務内容に合わせた修正、新規登録や削除を行い、FAQ全体を整備しました。 ③業務改善等が図れるよう毎月寄せられるお客さまの声を集約し、局内共有しました。 ④災害時対応については、発災時にお客さまセンターが行うべき受電対応をスーパーバイザーへ共有しました。 ⑤新規スーパーバイザーを対象に、業務全般について、局職員による研修を実施しました。 ⑥上下水道お客さまセンターが担う業務について、局職員向けに周知と研修を実施しました。 ⑦入力業務の効率化に向けた料金システムの改修を行いました。								
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1		説明		計画目標値	－	－	－					
				実績	－	－	－					
2		説明		計画目標値								
				実績								
3		説明		計画目標値								
				実績								
予算 決算 (単位： 千円)	事業	水道・工水・下水	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
			予算額	237,600	268,620			506,220	1,300,000			
			繰越					0				
			予算額									
	決算額	223,575	268,620			492,195						
		予算額					0					
		繰越					0					
予算額						0						
			決算額					0				

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）									
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	・お客さまからの問い合わせが多様化しており、この問い合わせにオペレーターが的確かつ迅速に対応するためには、上下水道お客さまセンターのスーパーバイザーのスキルアップが引き続き求められます。また、迅速に対応できるよう、業務変更に合わせた業務マニュアル及びFAQの見直しを迅速に行う必要があります。 ・お客さまから寄せられる意見や要望等を活用し、市民サービスの向上につなげられるよう継続的に声を集約し、共有する必要があります。									
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由									
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	・上下水道お客さまセンターのスーパーバイザーへ業務全般の研修を実施し、またFAQ全体を整備し直したことにより、的確かつ迅速に対応することができ、お客さまの利便性向上に貢献しました。 ・お客さまから寄せられる意見や要望等を集約・共有することで業務改善につなげ、市民サービスの向上に貢献しました。									

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II	上下水道局の総合受付窓口として、お客さまからの問合せに的確かつ迅速に対応するため、業務マニュアルやFAQの更新、スーパーバイザーへの研修を実施する等、引き続き、上下水道お客さまセンターの品質向上を図ります。									

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

給水装置課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】	
	施 策 21	お客さまの利便性の向上	
	取 組 52	給水装置関連業務のオンライン化	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		・お客さまからの問い合わせに対し迅速かつ正確に対応すること、適正かつ円滑な給水装置工事を確保すること及び、お客さまの個人情報を災害等から守ることを目的に、給水装置工事台帳を電子化します。 ・行政区管轄に捉われない窓口対応及び給水装置工事台帳情報の検索性向上によって応対時間の短縮化を図るため、給水装置工事台帳管理システムを導入します。 ・新たな生活様式や非接触型社会に対応するとともに、お客さまサービスの向上を図るため、給水装置関連手続をオンライン化します。	
取組の概要		・お客さまサービスの向上を図るために給水装置工事台帳を電子化します。 ・電子化した給水装置工事台帳データを有効活用するための管理システムを導入します。 ・お客さまサービスの向上を図るため、給水装置関連手続をオンライン化します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・給水装置工事台帳の電子化(令和7年度未完了) ・給水装置工事台帳管理システムの導入(令和4年度未完了) ・給水装置工事台帳管理システムの運用開始(令和5年度から) ・給水装置関連手続きに関するオンライン申請の導入(令和4年度未完了) ・オンライン手続きの本格運用開始及び、利用促進(令和5年度から)	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所	・給水装置工事台帳の電子化(令和7年度未完了)【令和5年度に変更】	
	変更理由	給水装置完成図大判図面(A3判を超えるもの)はスキャニングが難しいため、当初は電子化の対象外としていました。しかし、「川崎市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進プラン」に基づく業務のデジタル化を推進するため、大判図面も電子化し、より一層の業務運営の効率化とお客さまサービスの向上を図ることとしました。	

計画(Plan)

今年度の取組内容	① 給水装置完成図大判図面の電子化を行うため、予算要求等の必要な準備を行います。 ② 給水装置工事台帳管理システムを円滑に運用します。 ③ オンライン化した給水装置関連手続きの利用を促進します。
----------	---

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				① 給水装置完成図大判図面の電子化を行うため、予算要求等の必要な準備を行いました。 ② 電子化した給水装置工事台帳のデータを有効に活用するため、給水装置工事台帳管理システムの運用を開始しまし た。 ③ 給水装置関連手続きのオンライン化について、令和5年度から本格運用を開始しました。 上記①-③のDX化により、お客さまの利便性が向上しました。								
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明			計画目標値	－							
				実績								
2	説明			計画目標値	－							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		水道	予算額	41,668	1,815			43,483	50,000			
			繰越	0	0			0				
			予算額	24,831	1,969			26,800				
			決算額									
			予算額					0				
			繰越					0				
予算額						0						
			決算額					0				

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		3	実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			・給水装置工事台帳管理システムを適正かつ円滑に運用できるよう、保守管理を継続する必要があります。 ・オンライン申請の利用を促進する必要があります。 ・給水装置工事台帳の更なる電子化を推進するため、A3を超える大判図面の電子化を行う必要があります。	
施策への 貢献度	貢献度区分		A	施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			ICTの活用で給水装置関連のDX化を推進することによって、お客様の利便性向上させたことから、施策に貢献しています。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		II	・給水装置工事台帳管理システムを適正かつ円滑に運用できるよう、保守管理を継続します。 ・オンライン申請の利用促進の取組を進めます。 ・給水装置工事台帳の更なる電子化を推進するため、A3を超える大判図面の電子化を行います。								

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

営業課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保				
	10年間の方向性	市民サービスの充実				
	施策 21	お客さまの利便性の向上				
	取組 53	新たなサービスの提供に向けた取組				
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		新たなサービスの検討やICTの活用を適切に行うことで、お客さまの利便性及び市民サービスの向上を図ります。				
取組の概要		料金徴収業務等における行政手続のオンライン化や水道スマートメーターの導入に向けた検討を行うとともに、工業用水道事業の自動検針記録計をICTを活用して更新していきます。				
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・料金徴収における新たなサービスの導入について事業環境の変化やお客さまの利便性の向上などを考慮し、料金徴収における諸手続について検討を行います。 ・水道スマートメーターに関する課題や導入効果等の検証を行い、本市における導入のあり方について検討を行います。 ・工業用水道における現行システム(自動検針記録計)の安定的な運用及び保守を引き続き実施します。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について第3庁舎への移転に合わせて、令和5年第1四半期までに機器製作等を行い、移転後は機器の設置及び通信試験を順次実施し、令和5年度第4四半期にシステムの本格的な運用を行います。また、更新に向け通信方法等について使用者と協議や調整を行い、最適な通信方法等について検討します。				
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所					
	変更理由					

計画(Plan)

今年度の取組内容	・料金徴収における新たなサービスの導入について事業環境の変化やお客さまの利便性の向上などを考慮し、料金徴収における諸手続についてICT等の活用について検討を行います。 ・水道スマートメーターに関する課題や導入効果等の検証を行い、本市における導入のあり方について検討を行います。 ・工業用水道における現行システム(自動検針記録計)の安定的な運用及び保守を引き続き実施します。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について第3庁舎への移転に合わせて、令和4年度に工事発注します。また、更新に向け通信方法等について使用者と協議や調整を行い、最適な通信方法等について検討を行います。
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				・料金徴収における新たなサービスの導入について事業環境の変化やお客さまの利便性の向上などを考慮し、料金徴収 における諸手続についてICT等の活用について検討を行い、使用開始等の手続きや料金の支払いをスマートフォンで行え る(仮称)お客さまアプリの導入に向けて予算化を図りました。 ・水道スマートメーターについて、水道技術研究センターが主催する「A-smratプロジェクト」への参加などを通じ実用性や 課題等について情報収集を行い、本市において導入した場合の費用対効果等を整理しました。 ・工業用水道における現行システム(自動検針記録計)の安定的な運用及び保守を引き続き実施します。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について庁舎移転延期に伴い、工事発注を令和5年度に変更 し、「工水利用者協議会幹事会」において、事業スケジュールの見直しによる工期の変更について報告を行いました。ま た、更新に向け通信方法等について使用者と協議や調整を行い、全ての使用者において無線通信が可能となりました。								
				指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値
1	説明		計画目標値	－								
			実績									
2	説明		計画目標値	－								
			実績									
3	説明		計画目標値									
			実績									
予算 決算 (単位： 千円)	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
	工水	予算額	0				0	200,000				
		繰越	-				0					
		予算額					0					
		決算額	0				0					
		予算額					0					
		繰越					0					
		予算額					0					
決算額						0						

評価（Check）

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	・（仮称）お客さまアプリについてお客さまの利便性の向上に資するよう使い勝手がよく、また、業務の効率化が図られるよう適切にアプリ開発を行う必要があります。 ・水道スマートメーターの導入については、地方公営企業としての経済性の確保という側面と水道事業におけるDX化という社会的要請の側面のバランスを考慮して方向性を検討する必要があります。 ・工業用水道におけるシステム（自動検針記録計）の更新について第3庁舎への移転に合わせて工事発注を行い、令和5年度第4四半期にシステムの本格的な運用を行う予定でしたが、庁舎移転延期に伴い、運用開始を令和6年度第3四半期に見直しました。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	・（仮称）お客さまアプリの導入に向けた検討を行いICTの活用を推進することで、お客さまの利便性向上に寄与していることから、施策へ貢献できました。 ・工業用水道使用者に対し「自動検針記録計更新に伴う流量値確認方法に関する」アンケート調査を行い、使用者のニーズに合わせた運用方法の検討を行うことにより、施策へ貢献することができました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I	・（仮称）お客さまアプリについてお客さまの利便性の向上に資するよう使い勝手がよく、また、業務の効率化が図られるよう適切にアプリ開発を行います。 ・水道スマートメーターの導入については、地方公営企業としての経済性の確保という側面と水道事業におけるDX化という社会的要請の側面のバランスを考慮して方向性の検討を進めます。 ・工業用水道におけるシステム（自動検針記録計）の更新について第3庁舎への移転に合わせて、移転後は機器の設置及び通信試験を順次実施し、令和6年度第3四半期にシステムの本格的な運用開始ができるよう目指します。 ・工業用水道について「自動検針記録計更新に伴う流量値確認方法に関する」アンケート調査結果に基づき、使用者のニーズに合わせた運用方法を決定します。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔国際事業推進〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		
	10年間の方向性	国際展開の推進【環境】【持続】		
	施 策 22	世界の水環境改善に向けた国際事業		
	取 組 54	官民連携による国際展開		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		海外における水ビジネスを通じて市内企業の国際競争力の強化を図るとともに、世界の水環境改善へ貢献し、市民が川崎市を誇れるように川崎市のプレゼンスの向上を図ります。		
取組の概要		世界の水環境改善への貢献のため、かわさき水ビジネスネットワーク(かわbizネット)会員の海外での水ビジネス案件形成に向けた協力を進めます。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・かわbizネット会員の海外での水ビジネス実現に向けたJICA調査事業等への協力 ・かわbizネット総会やセミナーの開催、国際展示会への出展等による情報発信の実施		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画 (Plan)

今年度の取組内容	①かわbizネット会員の海外での水ビジネス実現に向けたJICA調査事業等への協力 ・ベトナム/バリア・ブンタウ省でのJICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業～普及・実証・ビジネス化事業～」への応募に向けた支援 ・ベトナムでのJICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業～ニーズ確認調査～」の事業実施支援 ・ベトナム/ダナン市での環境省「アジア水環境改善モデル事業」の事業実施支援 ②かわbizネット総会やセミナーの開催、国際展示会への出展等による情報発信の実施 ・かわbizネット総会やセミナーでの情報発信 ・長沢浄水場内広報施設「水とかがやく未来館」及び入江崎水処理センター内広報施設「ワクワクアクア」における情報発信 ・第16回川崎国際環境技術展での情報発信
----------	---

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①かわびズネット会員の海外での水ビジネス実現に向けたJICA調査事業等の事業実施支援や応募支援を実施しました。 JICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業」を2件、環境省「アジア水環境改善モデル事業」を1件実施しました。 ②かわびズネット総会及びセミナーを開催しました。また、第16回川崎国際環境技術展への出展のほか、各広報施設を通 じて情報発信を実施しました。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	活動 指標	上下水道分野の国際展開活動件数		計画目標値	－	100	100	100	100	100		件/年
		説明	かわさき水ビジネスネットワークに関連し た活動及び技術協力に関連した活動(取 組55の活動)の合計件数	実績	104	111	109					
2				計画目標値	－							
		説明		実績								
3				計画目標値								
		説明		実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
			予算額	－	－	－	－	0	－			
			繰越	－	－	－	－	0				
			予算額	－	－	－	－	0				
			決算額	－	－	－	－	0				
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
決算額						0						

評価（Check）

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	問題を抱える世界の水環境の現状に対して、世界では平成27年9月に国際連合が持続可能な開発目標（SDGs）を設定し、目標の一つとして水と衛生の改善を掲げました。一方、国内では厚生労働省による新水道ビジョン（H25.3）、国土交通省による新下水道ビジョン（H26.7）において上下水道分野での国際展開が明示され、外務省による開発協力大綱（H27.2）においても官民連携や自治体連携の強化等により開発協力を進めていくことが明示されました。その後、新下水道ビジョン加速戦略（H29.8）において水インフラ輸出の促進や、令和5年3月改訂により熊本水イニシアティブを受けた効果的な海外案件形成の加速が明示されました。こうした世界や国の動向等から、上下水道分野における国際展開の推進が引き続き必要とされています。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	かわびズネットを通じた水関連企業の海外展開支援を推進した結果、市内企業の国際競争力の強化や川崎市のプレゼンスの向上が図られるとともに、世界の水環境改善に貢献することができました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		I	官民連携による国際展開について、かわびズネットを通じて、JICA調査事業等への協力や会員の海外展開スキームへの応募支援をするとともに、上下水道技術等の情報発信をすることで、会員企業の国際競争力の強化を図りながら、引き続き世界の水環境改善に向けて取組を推進していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔国際事業推進〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		  
	10年間の方向性	国際展開の推進【環境】【持続】		
	施 策 22	世界の水環境改善に向けた国際事業		
	取 組 55	技術協力による国際貢献		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		上下水道分野の技術協力を通じて世界の水環境改善へ貢献し、市民が川崎市を誇れるように川崎市のプレゼンスの向上を図ります。		
取組の概要		世界の水環境改善への貢献のため、水問題が生じている地域に対して、本市が主体的に継続的な技術支援を実施します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・JICA技術協力プロジェクト等への専門家派遣の推進(ラオス) ・JICA草の根技術協力事業の推進(インドネシア・マカッサル市、バンドン市) ・海外からの研修生・視察者の受入れ		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画(Plan)

今年度の取組内容	①JICA技術協力プロジェクトへの専門家派遣 ・ラオス「水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)」において長期専門家及び短期専門家派遣の実施 ②JICA草の根技術協力事業の推進 ・インドネシア「マカッサル市における地下漏水対策実行能力向上プロジェクト」における現地活動及び本邦研修の実施 ・インドネシア「バンドン市における排水水質改善に向けた能力向上プロジェクト」における契約締結と事業の実施 ③海外からの研修生・視察者の受入れ ・JICA等を通じた研修生・視察者の受入れの実施
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）			①ラオス「水道事業運営管理能力向上プロジェクト（MaWaSU2）」については、令和2年11月から派遣されている長期専門家が引き続き現地での活動を継続したほか、短期専門家を派遣しました。さらに、現地セミナーへ参加しました。 ②インドネシア「マカッサル市における地下漏水対策実行能力向上プロジェクト」については、現地活動を4回、本邦研修を2回実施しました。また、インドネシア「バンドン市における排水水質改善に向けた能力向上プロジェクト」については、JICAとの契約を締結し、キックオフセミナーと4回の現地活動を実施し、2回の本邦研修を実施しました。 ③海外からの研修生・視察者の受入れ等について22件実施しました。									
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明			計画目標値	－							
				実績								
2	説明			計画目標値	－							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
事業		予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
予算 決算 （単位： 千円）		予算額	－	－	－	－	0	－				
		繰越	－	－	－	－	0					
		予算額	－	－	－	－	0					
		決算額	－	－	－	－	0					
		予算額					0					
		繰越					0					
		予算額					0					
		決算額					0					
評価（Check）												
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		3	実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）								
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			問題を抱える世界の水環境の現状に対して、世界では平成27年9月に国際連合が持続可能な開発目標（SDGs）を設定し、目標の一つとして水と衛生の改善を掲げました。一方、国内では厚生労働省による新水道ビジョン（H25.3）、国土交通省による新下水道ビジョン（H26.7）において上下水道分野での国際展開が明示され、外務省による開発協力大綱（H27.2）においても官民連携や自治体連携の強化等により開発協力を進めていくことが明示されました。その後、新下水道ビジョン加速戦略（H29.8）において水インフラ輸出の促進や、令和5年3月改訂により熊本水イニシアティブを受けた効果的な海外案件形成の加速が明示されました。こうした世界や国の動向等から、上下水道分野における国際展開の推進が引き続き必要とされています。								
施策への 貢献度	貢献度区分		A	施策の貢献度区分を選んだ理由								
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			技術協力による国際貢献のため、職員派遣や海外からの研修生・視察者の受入れを推進した結果、人材育成による組織力の強化や川崎市のプレゼンスの向上が図られるとともに、世界の水環境改善に貢献することができました。								
改善（Action）												
今後の取組の 方向性	方向性区分		I	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性								
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了			技術協力による国際貢献について、JICA技術協力プロジェクト等への専門家派遣や海外からの研修生・視察者の受入れ等を継続的に実施し、人材育成を図りながら、世界の水改善への貢献に向けて取組を推進していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔行政改革・組織定数〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保【持続】		
	施策 23	持続可能な経営基盤の確保		
	取組 56	組織機構及び職員定数の見直し		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		お客さまが将来にわたりいつでも安心して上下水道サービスを利用できるよう、効率的・効果的な執行体制の整備を推進します。		
取組の概要		経営の効率化を推進するため、緊急時の即応体制などを考慮しながら、引き続き適正な職員定数の管理と効率的・効果的な組織整備を推進します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・次期財務会計システムの構築を契機として実施する、財務事務の検証を踏まえた業務の効率化と執行体制の見直し ・危機管理業務等における技能職等の役割や必要人員の精査など、効率的・効果的な執行体制の検討 ・その他の事務・業務についても、執行体制の見直しを引き続き推進		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	①次期財務会計システムの工期延期を行った一部機能のリリース及び企業債管理機能の一部追加機能のリリース(令和5年9月) ②次期財務会計システムの構築等を含んだ財務事務の効率化に伴う効率的・効果的な業務執行体制の構築に向けた検討 ③自動車運転手及び下水作業員に係る業務内容や危機管理対応を踏まえた配置車両の適正化に向けた協議・調整 ④その他執行体制の見直し
----------	---

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				①②財務会計システムの企業債管理や支出管理などの一部追加機能のリリースを行い、財務事務に関わる各課の業務分析結果を踏まえ、効率的・効果的な財務事務の執行体制の検討に着手しました。 ③自動車運転手及び下水道作業員の平常時と危機事象時における役割や必要人員の精査等を踏まえた、効率的・効果的な業務執行体制の構築及び配置車両の適正化に向けた検討を進めるとともに、協議・調整に着手しました。 ④令和6年度組織整備計画及び職員配置計画において、入江崎統合幹線等に係る事業を推進するため、下水道施設再構築担当を設置するとともに、業務平準化、効率化等を推進するため、水管理センター、南部下水道事務所、及び中部下水道事務所にスタッフ制を導入しました。								
指標分類		指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明			計画目標値	－							
				実績								
2	説明			計画目標値	－							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
			決算額					0				
			予算額					0				
			繰越					0				
			予算額					0				
決算額						0						

評価（Check）			
今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	定年引上げや少子化、公務員志望者の減少などといった社会環境の変化を見据え、上下水道事業の取組を効率的かつ確実に推進するための組織整備と適正な職員配置が引き続き求められます。
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	令和6年度組織整備計画及び職員配置計画において、下水道施設再構築担当を設置するとともに、水管理センター、南部下水道事務所、及び中部下水道事務所にスタッフ制を導入するなどにより、効率的・効果的な執行体制を確立したことから、経営の効率化に貢献しました。

改善（Action）			
今後の取組の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	社会環境の変化に対応しながら、上下水道事業中期計画を推進するため、引き続き必要な組織整備や職員配置に取り組み、効率的・効果的な執行体制の整備を推進します。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

		所管課	庶務課
取組の概要			
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保【持続】	
	施策 23	持続可能な経営基盤の確保	
	取組 57	人材育成の推進	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		市民生活に必要な不可欠な生活基盤を支える専門家集団としての使命果たすため、専門的な知識や高度な技術等の習得にも積極的な職員を育成するとともに、技術・技能の継承を図り、組織力の向上を図る取組を進めます。	
取組の概要		・専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、職場におけるOJT(職務遂行を通じた教育訓練)を中心に、OJTを発展させた職場研修や局研修を実施するほか、専門的な知識や高度な技術の習得等を図るため、積極的に派遣研修や国内外の貢献活動への職員派遣を実施します。 ・組織の方針や使命、行動指針等を職員一人ひとりに浸透させ、職員の学ぶ意欲を生かす人材育成環境の整備等により職員の改革意識や意欲の更なる向上を図り、専門的な知識・技術・技能を確実に継承しながら、人材育成を効果的に推進します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、職場におけるOJT(職務遂行を通じた教育訓練)を中心に、OJTを発展させた職場研修や局研修を通じた人材育成を推進 ・職員の意欲向上に関する取組として、局研修やオフサイトミーティングを実施 ・職員の改革意識に関する取組として、業務改善・研究発表会や職場提案などを実施 ・効果的に人材を確保するため、川崎市職員採用説明会やかわさきナビゲーターなどを通じて、川崎市上下水道局の魅力積極的に発信する取組を推進	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所	
		変更理由	

計画 (Plan)	
今年度の取組内容	①OJT、育成担当者制度及び職場研修を実施 ②一般研修及び専門的な研修プログラムを実施 ③外部団体等が主催する研修への参加 ④職場体験研修を実施 ⑤育成型ジョブローテーションによる職員のキャリア形成を推進 ⑥職場提案、業務改善・研究発表会を実施 ⑦オフサイトミーティングを実施

実施結果（Do）

取組内容の実績及び 定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に 対し、目標を上回って達成した 場合、又は、目標を下回った場 合は、その理由も記載)				①所属の先輩職員を、入庁2年目までの指導を担当する育成担当者として活用するなど、各所属におけるOJTを推進しました。 ②業務遂行上必要な基本的な知識及び技術の習得と実務能力の向上を軸とした研修を実施しました。 ③職務を遂行する上で必要な高度・専門的知識及び技術を習得させるため、外部が主催する研修へ参加しました。 ④～⑤職場体験研修の実施や育成型ジョブローテーションに取り組むことにより、職員のキャリア形成の推進に努めました。 ⑥～⑦職場風土改善のため、職場提案、業務改善・研究発表会、意見交換会等を実施しました。 ※今年度は意見交換会の実施方式をオフサイトミーティングからラウンドテーブルミーティングに変更しました。									
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位	
		説明											
1	成果 指標	人材育成の取組の浸透度			計画目標値	－	56.2	59.1	61.5	63	63		%
		説明	局内全職員へのアンケート調査(4項目) における、人材育成の取組の浸透が見 られる回答割合の平均		実績	52.9	47.1	44.7					
2					計画目標値	－							
		説明			実績								
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)				
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
			決算額					0					
			予算額					0					
			繰越					0					
			予算額					0					
	決算額					0							

評価（Check）

今年度の取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	4	人材育成基本方針及び局人材育成計画における考え方や取組の方向性に基づきながら、これまでの成果や課題、その他人材育成に関わる様々な本市の計画と国の動向等を踏まえ、必要な見直し、拡充を図り、取組を推進していく必要があります。 令和3年度から実施している「人材育成の取組の浸透度アンケート」では、任意での回答としたにも関わらず、無回答を含めたことで、正確な数値（浸透度）を把握することが困難になってしまったこと及び回答項目を細分化し選択肢を増やした（令和3年度は3つ、令和4年度は4つ）ことにより、さらに比較を困難にしてしまったことが、目標を下回った大きな要因となり、今後の課題となります。	
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	「人材育成の取組の浸透度アンケート」の結果は目標を下回ってしまいましたが、専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、計画した取り組みのとおり人材育成の推進を進めてきたことから、施策へ貢献することができました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性									
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		II	本取組の実施については、継続することにより効果が出るものと考えており、基本的には引き続き現状の事業内容を維持することが適切と考えています。また、「人材育成の取組の浸透度アンケート」の結果で認知度が低かった項目は、次の目標設定時にはより達成度を正しく評価できる指標に改めることとし、併せて局研修についても職員にとってより効率的・効果的なものになるよう、改善しながら継続していきます。								

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

情報管理課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保【持続】		
	施 策 23	持続可能な経営基盤の確保		
	取 組 58	デジタル化の推進		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		デジタル化の推進により、お客さまサービスの向上や業務の効率化が図られるとともに、新しい生活様式を踏まえた持続可能なサービス提供・事業運営を行います。		
取組の概要		・ICTにおける技術革新の急速な進展等による環境変化を的確に捉え、更なるお客さまサービスの向上や事業運営の効率化、働き方・仕事の進め方改革の推進に向け、適切なシステム導入や情報セキュリティ対策を継続して実施していきます。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、非接触を念頭に置いたお客さまサービスへの転換や業務継続性の向上など、引き続きスピード感を持ってデジタル化を推進していきます。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・局内における情報化施策の推進 ・各業務システムの安定的・効率的な運用管理 ・情報セキュリティ対策の徹底 ・デジタルファーストの行政サービスの提供 行政手続きのオンライン化を推進します。 ・市役所内部のデジタル化の推進 テレワークの推進、ペーパーレス環境の実現、庁内会議のオンライン化を推進します。		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所			
	変更理由			

計画（Plan）

今年度の取組内容	①情報化施策の推進・システムの運用管理・セキュリティ対策の徹底 ・局内における情報化施策の推進 ・各業務システムの安定的・効率的な運用管理 ・情報セキュリティ対策の推進 ②行政手続きのオンライン化 ・オンライン化に課題がある行政手続きについては、課題解消に向けた検討を進め、順次オンライン化を実施 ③テレワークの推進、ペーパーレス環境の実現、庁内会議のオンライン化 ・テレワーク、紙削減・ペーパーレス、オンライン会議の推進
----------	--

実施結果（Do）												
取組内容の実績及び定性的成果 （上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）				①情報化施策の推進・システムの運用管理・セキュリティ対策の徹底 これまでの取組と同様に、局内の情報化計画及びシステム導入に関する評価・調整を適切に実施した上で、計画的に情報化を推進しました。								
				②行政手続のオンライン化 ・年度末時点における、電子申請が可能な手続のうち、給水装置・排水設備工事関連業務、水道使用に関する業務、公共下水道接続に関する業務などにおける行政手続について、令和5（2023）年度に1手続を追加し、合計189手続のオンライン化を実施しました。								
				③テレワークの推進、ペーパーレス環境の実現、庁内会議のオンライン化 ・新しい生活様式を踏まえたデジタル化の取組について、市長事務局と連携して取組を推進しました。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1				計画目標値								
				実績								
2	説明			計画目標値	－							
				実績								
3	説明			計画目標値								
				実績								
予算 決算 （単位： 千円）		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）			
			予算額									
			繰越									
			予算額									
			決算額									
			予算額						0			
			繰越						0			
			予算額						0			
決算額							0					

評価（Check）				
今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		3	上下水道局DX推進プログラムに基づき、情報セキュリティの確保を図りながら、デジタル化の取組について推進し、また、各情報システム導入計画の評価を行うことで、局における情報化施策を効果的かつ効率的に推進することができましたが、今後、さらなるDXの推進を図るためには、職員の意識醸成を図る必要があるなどの課題があります。
施策への貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		A	情報セキュリティの確保を図りながら、デジタル化の取組や局における情報化施策について推進するなど、業務の効率化に貢献しました。

改善（Action）			
今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 改善しながら継続 Ⅲ. 取組規模拡大 Ⅳ. 取組規模縮小 Ⅴ. 取組廃止 Ⅵ. 取組終了		
	Ⅰ		業務を実施する上で情報システムは欠かせないものであるため、取組を継続していきます。また、市情報系NWのインターネット系移行等への影響を考慮した更なるセキュリティ向上対策をはじめ、デジタル技術の進展や情報環境の変化を踏まえた情報環境の整備、システム導入及び安定的・効率的な運用を図っていくとともに、今後のDX推進を目的とした職員の意識醸成を図っていきます。

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

経営戦略・危機管理室

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	  
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保	
	施策 23	持続可能な経営基盤の確保	
	取組 59	資産の有効活用	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		上下水道事業の施設用地、管路用地等の局資産の有効活用を図ることにより、収益の確保に貢献します。	
取組の概要		局資産の有効活用を図ることにより、収益の確保に貢献していくため、用地等の貸付けによる有効活用や再生可能エネルギー創出に向けた取組を推進します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・収益確保に向けた用地等の貸付けによる有効活用の推進 ・施設上部や低未利用の状態にある土地等の貸付けによる有効活用の推進 ・生田浄水場や入江崎水処理センター用地の有効活用に関する取組の推進 ・再生可能エネルギー創出に向けた取組の推進 ・資産を有効活用するPPAモデル等を適用した太陽光発電などによる再生可能エネルギー電力の導入に向けた検討の推進	
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所		
	変更理由		

計画（Plan）

今年度の取組内容	①民間事業者等への用地等の貸付けなどを継続実施 ②自動販売機設置スペースの入札を行い、一時貸付け(5年間)を実施 ③さく井跡地の有効活用について、民間事業者への公募の実施 ④末吉配水池上部や入江崎水処理センター西系施設有効活用について、公募に向けた発注準備の実施
----------	--

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)				①民間事業者等への用地等の貸付けなどを継続実施しました。 ②令和4年度に引き続き、資産の有効活用を図るため、施設内や用地の一部において、自動販売機設置スペースの入札を行い、一時貸付け(5年間)契約を締結したほか、月極駐車場など民間事業者への土地の有償貸付けなどを継続実施しました。 ③中野島さく井跡地について、有効活用に向けた方策として使用者を募集している旨の現地看板設置やホームページでの周知実施を決定しました。 ④末吉配水池上部は川崎市域内で有効活用する手法について関係局と協議を行いました。入江崎水処理センター西系施設上部の有効活用について、太陽光発電の導入について公募に向けた発注支援業務委託を行い、準備を進めました。								
指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	成果 指標	資産の有効活用の収益額			計画目標値	－	9.1	9.1	9.1	9.1	－	億円
		説明	資産の有効活用の取組(継続・新規)を実施することで得られる収益の決算額の推移をみることで、有効活用による財政効果を測るもの		実績	8.5	9.3	9.4				
2					計画目標値							
		説明			実績							
予算 決算 (単位： 千円)		事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
			予算額									
			繰越									
			予算額									
			決算額									
			予算額									
			繰越									
			予算額									
決算額												

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)			
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	持続可能な経営基盤を確保するため、継続的に収益確保を図っていく必要があります。			
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由			
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	貸付け等を行うことにより、成果指標である「資産の有効活用の収益額」の目標を達成し、水道事業、工業用水道事業及び下水道事業の収益確保に貢献することができました。			

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性			
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I	用地等の貸付けによる有効活用を推進し、収益確保に貢献するため、今後も民間事業者等への使用許可等を実施するとともに、末吉配水池上部など更なる資産の有効活用に向けた取組を継続します。			

令和5年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔経営戦略〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保		
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保		
	施 策 23	持続可能な経営基盤の確保		
	取 組 60	財政基盤の強化に向けた検討		
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)		水道、工業用水道、下水道の各事業会計において、適正な料金・使用料のあり方や財源確保、資金の活用方法を検討することで、持続可能な経営基盤の確保を図ります。		
取組の概要		将来的に人口減少などによる水需要の減少や、老朽化した施設の更新などによる事業費の増加が見込まれています。そのような将来の事業環境を見据え、適正な水道料金・下水道使用料のあり方や適切な資金の活用方法を検討するとともに、老朽化した施設の更新のため、財政的な検証を踏まえた効率的・効果的な計画を検討します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)		・適正な料金・使用料体系のあり方の検討 ・財源の確保、資金の活用方法に関する検討		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）		変更箇所		
		変更理由		

計画（Plan）

今年度の取組内容	①工業用水道事業について、工業用水道利用者の将来の水需要を改めて調査し、施設更新計画の策定と新たな料金制度の検討を進めます。 ②企業債の発行方法等について、水道事業会計及び工業用水道事業会計における法定耐用年数未満での借入れ（借換えを想定）、公的資金以外の民間等資金からの調達を組み合わせ実施します。下水道事業会計における公的資金による借入れについては、近年の資金状況の改善を勘案して元金均等償還・据置期間2年とします。 ③累積資金の効果的な活用方法について関係機関と調整しながら検討を進めます。
----------	---

実施結果（Do）

取組内容の実績及び定性的成果

（上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載）

①工業用水道事業の施設更新及び料金制度のあり方について、令和4年度に川崎市上下水道事業経営審議委員会から受領した答申を踏まえた方向性を工業用水道利用者へ説明するとともに、改めて令和7年度以降の水需要に関する調査を実施し、施設更新計画の策定と新たな料金制度の検討を行いました。

②企業債の発行方法等について、令和5年度同意分において、水道事業会計及び工業用水道事業会計については、公的資金による借入に加え、借換えを前提に法定耐用年数未満での満期一括償還による民間等資金を活用した借入を行うとともに、公的資金による借入について、水道事業及び工業用水道事業においては、元利均等償還から元金均等償還に変更し、下水道事業会計においては、元利均等償還・据置期間5年から元金均等償還・据置期間2年に変更することにより、将来の金利上昇リスクを考慮しながら、支払利息の低減を図りました。

③累積資金の効果的な活用方法として、一般会計を含む会計間の資金融通について、財政局・会計室等と覚書を締結し、また、債券運用に向け関係する要綱、要領、指針を改定し、令和6年度から新たな資金運用手法の導入に向け取り組みました。

指標分類		指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
		説明										
1	説明			計画目標値	-							
				実績								
2	説明			計画目標値	-							
				実績								
予算 決算 （単位： 千円）	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 （4年間）				
		予算額	-	-	-	-	0	-				
		繰越	-	-	-	-	0					
		予算額	-	-	-	-	0					
	事業	決算額	-	-	-	-	0					
		繰越					0					
		予算額					0					
		決算額					0					

評価（Check）

今年度の 取組内容 に対する達成度	達成度区分		実施結果等を踏まえた課題（事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載）	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	工業用水道利用者の水需要調査の結果、将来の水需要が減少しているに伴う料金収入の減少が見込まれること等に対応していく必要があります。 人件費や原材料価格などの高騰により運用コストに影響を及ぼしていることから、今後も影響について注視していく必要があります。 企業債の発行方法等については、新しい運用の開始後においても、毎年度、社会情勢等を注視しながら必要に応じて見直しを実施していくことが求められます。	
施策への 貢献度	貢献度区分		施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	工業用水道事業の水需要調査の実施から、施設更新及び料金制度のあり方の検討を進めることができ、効果的な資金調達方法の整理、累積資金の活用を検討したことにより、施策の効果である財政基盤の強化に良い影響を与えることができました。	

改善（Action）

今後の取組の方向性	方向性区分		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II	今後の人口減少などによる水需要の減少や、老朽化した施設の更新については中期計画策定時から見込んでいたが、人件費や原材料価格などの高騰という新たな経営環境の変化が生じているため、水道事業及び下水道事業の経営にも影響をしています。このため、水道料金及び下水道使用料制度等のあり方について検討を進めるとともに、財源と必要な事業費のバランスについて改めて精査を行いながら、財政基盤の強化に向けた検討を進めていきます。	